諸雜穀委托販賣及賣買
委托品に對する擔保貸附
其他以上の營業に關する副業

小樽港

# 北海雜穀株式會社

電話 四二七 二四二八
電略 コク



●弊社を利用せらるゝ委托者の御便利

時代の要求に應じて生れたる當社は創立以來其使命を全すべく如何に眞率に如何に熱誠に活動せるかは夙に諸君の熟知せらるゝ所に候
當社は眞摯なる通信と忠實なる進言を諸君に提供し常に相場の高低を豫報し參考資料に供し候
故に當社へ委托せらるゝ荷主諸君は居ながらにして內外各地の商情を審し從て御手持品を敏活に處理せらるゝの便あること疑ひなき所と確信致居候

海陸物產
木材薪炭
繩筵各種
委托問屋

北海道中央小樽驛前

# 北海物產合資會社

國電話四三四番
電略(ホ)又ハ(ホク三)



倉庫專業

小樽區堺町二十番地

# 中山合名會社

電話四百四十番
電略(キ六)又ハ(ナ)

◉北海道鐵道線各停車場前二ハ弊店名義ノ取引店ヲ特置有之候

鐵道院北海道鐵道管理局認可

中央小樽停車場前

大

# 中央運送店

電話(一一二五番)
振替貯金東京(一九六三七番)
電略(ヤ)又ハ(〇タイ)

鐵道船舶
貨物運送 取扱

◉內地鐵道線各停車場前二ハ特約取引店ヲ置キ聯絡運送致シ申候



各國
繩筵
卸商

小樽區色內町四十番地

仁

# 伊藤商店

電話(七二一七)
電略(〇二)

# 愛生病院

院長醫學士 木村麟太郎

電話(三五壹)

入院隨意

雜貨屋

薄利 親切ハト

營業品目

和洋酒罐詰
內外砂糖麥粉
麵類燐寸白〆
味噌醬油和紙
其他荒物雜貨

小樽區色內町

# 中鹿支店

長電話四百十八番

弊店ノ特長也

# 茶、紙、文房具、雜貨問屋

小樽區色內町郵便局向

越

早川商店

電話長一八番

# 鐵道貨物取扱專業

北海道中央小樽驛

本

合資會社 共立社

○本道線各驛一般に確實なる取引店の設備有之候
○發着貨物等何れも大いに面目を改め御取扱可致
候間仕業の專跡に微し見られ度候

電略○ホン
電話三六九番





# 海陸物產商

小樽區色內町四十一番地

岩村德治郎商店

電話四二四番
電略キヨ(又ハ)キ

一本店は函栗山回漕と聯絡して輸出の便あり鐵道貨物は內地聯絡の便あり
一本道各沿線各驛に確實なる取引店の設備あり
一發着貨物等何れも大いに面目を改め御取扱申上候間斯業成績に御注目を希ふ

北海道中央小樽驛

栗山組取引店

電話四三四番
電略(チ○)又(○)

海陸運送業

北海道中央小樽驛前通

小川運送店

電略（コ）又ハ（ヲカ）
電話七一四

和漢洋書籍
諸雜誌類

小樽區色内町

左文字書店



御旅館

小樽區色内町

谷吉太郎

電話長一一五番
七六番

一等旅館

小樽區色内町（電話四一二五）

越中屋

（食堂、玉突場、西洋室、西洋浴場の設備完全）

上谷治三郎

旅館

常盤館

小樽區色内町廿二番地

渡邊寺

電話

竹澤花園寫眞館

小樽區花園町大通

洋酒料理

札幌ビール

生ビール

高等アイスクリーム

鮮魚鳥肉

東籬軒

小樽區入船町

電話

御荷物所

中央小樽驛前

鹿島組

電話八七六

和洋小間物
舶來流行帽子
ハンケチ、リボン、ネクタイ、ソックス
地下足袋

東嶋洋物店

小樽區色内町拾六番地

電話百九七四番

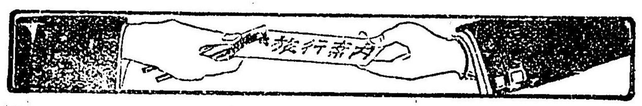


小樽驛構内

西谷運送店

電略 電話

銘酒
中
北海道十一州聯合清酒品評會一等賞受領
小樽外六郡酒類品評會一等賞受領
紐酒
酒
醸造元
小樽國奥澤一番
京佐知合合資會社




## ●中央小樽驛

小樽は本道唯一の大都市にして函館と共に亦北海道に於ける最大都市たり、即ち函館港が東海岸一帶の商權を握るが如く、小樽港は西北海岸の要港として殊に豐沃なる石狩原野の咽喉を扼し、其商域函館に優越す、要するに函館小樽兩港の聯絡は蓋北海通鐵道の依て起れる大眼目なりとす。

●位置　小樽は後志國小樽高島二郡に跨り北西南三方は山嶽丘陵を負ひ東方一帶小樽灣に面し遙に石狩國と相對す、海岸弓形をなし街衢又略之に準じて南北に延長せり、其間數個の丘陵ありて一高一低市區整正ならず、北方に港あり、東西十八町、南北十町、深さ四尋より五尋に至る高島岬其北を擁して風濤を遮り、大艦巨船を安全に碇繫するを得べし、海上の交通は日本郵船會社の東廻の定期船あり、更に天鹽北見の諸港に接續する命令航路あり又社外船數多ありて各地との往復絶えず、陸は鐵道により札幌に至る二十二哩、岩見澤驛、砂川を經て旭川に至る百六哩、釧路に至る三百哩室蘭に至る百三十哩、加ふるに蓋北鐵線に依て膽振を扼す、以て北海道大原野の關門をなせり。（口絵小樽全港寫眞參照）

●沿革　小樽は原名を「オタルナイ」と云ひ砂川の義にして石狩、小樽二郡の境界にある川より起因す松前藩の時其支流に居住する土人を今の小樽の地に移し、漁場を開き「オタルナイ」場所と呼ぶ、後志十七漁場の一にして該藩士氏家新兵衛の支配地たり、當時漁場の請負人屋舍を設け土人を使役して鰊漁を營めり、又渤次內地より出稼に來る者ありしが、皆春期に來り秋期に去り永住するを許さず、此成規は獨り小樽のみならず、蝦夷の奥地皆同樣なりき、加之後志國神威岬以北は古來の習慣として女子の通行を禁せり、是れ忍路高島の俗

謠の因て起れる所以なりと、幕府の蝦夷地を直轄するに及び大に移來の陋弊を改め拓地殖民を奬勵し又幕吏梨本彌五郎と云へる人安政二年始て妻女を伴ひて神威岬の沖を過ぎ以て女子通行の禁を解けり、是より漸次奥地に永住する者增加し、小樽漁場も一の聚落をなすに至れり、明治二年本道に開拓使を置かるゝや小樽は一躍して重要の地となり、施設經營する所少なからず、明治六年には阜頭を色内の海岸に築き、次て手宮に築き、明治三年には手宮札幌間の鐵道竣工し二十三年には小船の碇泊場を築造す、其他海面の埋立市區の改正等觀るべき工事多く日に月に繁盛に赴き明治二十三年特別輸出港となり同二十七年露領沿海州薩哈嗹等又朝鮮貿易に關する帝國臣民所有の船舶出入及貨物の積卸を許さる、茲に於て港灣の修築倍々其必要を感じ、遂に明治三十年國費を以て十ヶ年の繼續事業と爲し小樽築港に着手工費概算二百萬圓とす、同三十二年十月區制を實施して自治制となり、同三十三年八月更に外國貿易港となれり。

爾來小樽は驚くべき進歩を加へ、明治元年には僅に四百四十戸二千二百三十人なりしもの十年には一千四百二十八戸六千四百三十二人となり、二十年には三千七百九戸一萬五千四百六十一人となり三十年には一萬千六百二戸五萬四千九百六十六人となり、乃ち三十ヶ年間に戸數に於て二十六倍餘人口に於て二十四倍餘の增加を示し近く爾來の十年間は其增加更に急なりしは勿論、去る三十六年三十七年兩度の大火に數千戸を烏有に歸せしめたるにも拘はらず、

最近の調査に依れる戸數一萬四千六百廿、人口八萬九千七十六に達す、斯の如き急劇の進歩は全國を通じて僅に九州の門司と我小樽とに於て之を見るのみ。

而して今や鐵道は函館、釧路を貫通し陸上の連絡完きを得たるのみならず樣太の發展に伴ひ地勢上の關係に於て小樽の商域擴大せられ尙近き將來に於て鐵道は複線となり小樽港に於ての海陸連絡の諸設備の完全するの曉にも達せば益し小樽の膨大發達は意外なる盛大殷賑の域に達すべし。

●●●市街の狀況　小樽の市街は南方より開け漸次北方に擴張せり、開拓使の初に當ては今の濱町の背にある丘陵の岸には海波寄せ來りて纔に通行し得たに過ぎず、其南麓に官舍及び通行屋あり是より以南の地に市街をなせり、

其の後斷崖を削り海濱を埋立て市街を擴め、殊に明治十四年の大火に際し大いに市區を改正し防火線を設け、新に色内、手宮諸町を設け、爾後小樽の繁華は漸く南部を去つて中部以北に移れり、是れ其の阜頭に接近するによれり、斯くて戸口は年を追ふて長足の進歩をなし、明治十年度に至るまでは僅かに人口五六千を以て數へたるもの今は實に一萬四千六百廿戸八萬九千七十六人の數を見るに至れり、而して市街の内最も目拔きと稱すべきは濱町、境町、色内町とす、此三町は相連絡して南北に亘り大賣藥商樣を列べ、百貨展列し郵便局各銀行及支店北海道鑛山會社及屈指の回船問屋旅店新聞社等其間に雜る家屋は概ね二階造りにして宏大なる石造亦少からず、明治三十七年春の大火は此繁華街を一夕の間に灰燼に歸せしめたりと雖、爾來更に市區改正の計畫を立て着々として進行し遂に今日の壯觀繁盛の光景を見に至れり、街路は西側を人道とし悉く切石を敷き中間を車馬道とし雨雪の際は人夫をして泥土を拂ひ、積雪を除かしむ、故に人馬熱鬧往來織るが如しと雖も、常に清潔を保てり、夜は每戸大抵電燈を點じ煌々として輝き、其繁華の景色遊歷者をして一驚を喫せしむ、手宮町亦繁華にして其棧橋は埠頭を橫斷し海中に突出すること二百餘間、汽車直に抵り以て

貨物の揚卸に便す、鴛炭礦鐵道株式會社附屬工場及手宮停車場あり、其北に小樽築港事務所あり、突堤の工事着々として歩を進め將來千八百尺に達せしむるの豫定なり、北濱町、南濱町は海に沿ひ倉庫回漕店多くして樞要の地たり、入船町亦繁華なり其街上を横ぎりて鐵橋を架し、汽車其上を走る、住初町には小樽停車場あり、稻穂町には小樽中央停車場あり其各種の製造所工場等あり、量德町には小樽支廳、警察署、量德尋常高等小學校あり、山の上町は眺望に富み、魁陽亭を始め料理店多し、花園町は山腹に添ひ、區役所、商業會議所は公園地内にあり、其他の各町は次第に劣り概ね雜商、職工、勞働者、其外雜業者の住居に係る勝内町附近は重に漁業に從事せり。

●商業上の概況● 現今當港に於ける商業は開港市場として一ヶ年二百萬噸餘の貨物を集散し、將に横濱、神戸を凌駕せんとするの盛況を呈するに至れり。

既に斯の如き盛況を呈し尚更に將來一層盛ならんとするもの之を要するに當港の位置優勝にして本道拓殖の進歩に伴ひ、逐年其商取引關係の内外に擴張せられたるの結果に外ならざるなり、而して當港に集散し且つ其市場に取引せらるゝ貨物の重なるものを擧れば、本道物産にして輸出品に屬するものは、海産、農産、木材、石炭の類、また府縣よりの輸入品は米穀を主として各種の織物之に亞ぎ、酒、煙草、砂糖、食鹽、繩莚其他雜貨等の類なり。

近來陸産の開發著しくして既に海産を凌ぐの狀を呈すと雖も、固と本道に於ける商取引は海産物の外なく、從つて是等海産物出廻時期たる夏季の二三ヶ月間、市場稍や繁忙を極むるも其他は多く閑散否な寧ろ取引なきの狀態なり、故に明治二十年に於ける當港の輸出額は、僅に五十萬六千四百





九十三圓、輸入百二十二萬八百六十圓の小額に過ぎざりし、尤も其當時の商業は漁業の要因如何に依り之を左右したるものなりしが故に、二十年の如き特に當港不漁の年は之を以て正當の標準とする能はずと雖も、當時輸出入は合せて三百萬圓に上るは蓋し稀なりしなり、然るに其當時より爾後漸次天鹽、北見の奥地に於ける沿岸漁業の發達を來すと共に、府縣より開墾の目的を以て本道に移住するもの年々に增加し、爲めに石狩、天鹽の内部各原野の開發を促し、農産物の生産また次第に增加するに伴ひ當港に集散するもの益々其多きを加るに至れり、而して明治廿七年特別輸出港となり、尋で卅三年開港場と改められし以來、海外貿易も俄に發達し、就中近年清韓其他海外諸國に對し、石炭、木材乃ち鐵道用枕木を始め建築材料等の輸出頗る盛況を極め、今や小樽港に於ける商業は一切殆んど間斷なく行はれ其取引の狀況亦活潑にして、三十九年の如き輸出額四千五百六十七萬二千二百五十六圓、輸入額五千四百四十三萬二千百四十九圓、合計一億十萬四千四百五圓の多額に上れり、是等貨物積載の爲め出入したる船舶七千四百八十八隻、登簿噸數三百五十萬五千五百九十五噸以て其盛況の如何を見るに足るべし。

●金融機關● としては日本銀行小樽支店、北海道銀行、三井銀行支店、日本商業銀行支店、北海道拓殖銀行支店、函館銀行支店、四十七銀行支店、百十三銀行支店、二十銀行支店、田中銀行支店、十二銀行支店、北海銀行支店、北海道貯蓄銀行支店等にして、日本銀行を除きたる其他の各銀行に於て三十九年中取扱たる各種の預金、貸金及荷爲換等の出入金額は實に三億七千八十萬七千三百五十六圓の多額に上り、之を去る三十年の九千九百四十六萬三百七十三圓に對照すれば僅く十年の間に殆んど四倍の膨脹を示せり、亦以て當港金融界の

趨勢を知るべきなり。

**重もなる諸會社**　倉庫の重もなるものは小樽倉庫を始めとし廣谷、長谷川、板谷、高橋、廣海、共同、右近、大家、井尻、藤山、岡田、白鳥、矢崎、中村、滿留八、大島、岡崎、木村等とし、小樽米穀取引所は明治二十七年株式組織を以て之を創立し現今日々の賣買高數萬石に上るの盛況を極む、其他北海雜穀株式會社を始め海陸物產等各種の商業に從事する株式會社、四十三、合名會社二十四合資會社十七あり、商業會議所は二十八年の創立にして此の他商工業に關する組合の數は四十餘を以て數ふるに至れり、日刊新聞は小樽新聞社あり。

**工業上の概況**　漁村より發達して商業地となりたる小樽港に於ては、其商業の隆盛なるに比し工業の見るべきもの固より少しと雖も、其工業の重もなる種類を擧れは製油、精米、清酒、味噌、醬油の釀造、魚油、製氷、製材、製紙、造船、鐵工場等にして今左に二三の重もなる工業上の概況を紹介すべし。

**小樽製油株式會社**　同會社は資本金七十五萬圓を以て明治四十年二月に成立し、專務取締役には山本順治氏其他の重役には米谷秀司、毛利友吉、大島重作氏等なり、工場は眞榮町に壯大なる建築を爲し營業の目的は菜種製油、薄荷、魚油等を以て重もなるものとし、裝置器械は英國製五十馬力一臺及最新式製油機械六十馬力の二臺を以て一日優に三百石を製造するの力を有し、四日市製油會社の機械二臺三百石の夫れと同等にして日本に於ける第二位を占るものなり、而して魚油の製造は四十一年鰊漁期より開始しまた薄荷の製造は北海道廳に於て特に奬勵し國有未開地三百萬坪の附與を受けたるもの、及び此他會社が他より購買せるものとを合せて會社直營栽培の計畫なるを以て、





逐年斯業の發達を促し近時に於て已に海外に輸出するの盛況を呈し其他陸海軍、帝國鐵道廳、日本製網所等の需用激增しつゝあり、而して不幸本年七月火災の爲め工場を燒失せしも直ちに復舊工事に着手し已に竣成せるを以て不日製造開始の運びに至るべし。

**香村魚油製造所**　小樽の香村英太郎氏の經營に係るものにして新富町に其工場を有し、機械其他の諸設備は最新式を用ひ質に北海道に於ての魚油精製販賣の嚆矢たり、而して其營業の目的は鰊、鰕、鮫を以て魚油を製造し冬期間は重もに肝油を精製するにあり、而して本道は水產を以て有名なるに拘はらず從來本道に於て此等魚油の精製を爲す能はず、何れも神戸、横濱の兩地に於て之を精製して輸出を爲しつゝありしに、香村氏夙に此點に着眼し爾後多くの費用を拋ち幾多の苦辛慘澹を累ねて之が研究に從事し、竟に右等の原料を以て頗る精良なる所の魚油の精製に成功し茲に其初一念を貫徹して去る三十九年末より香村魚油製造所に於て精製したるものを以て獨逸、英國其他の諸邦に直輸出を企畫するを得るの途を開き、迚年多くの輸出を見るに至りつゝあるは一に香村氏の鋭意熱心の功を多とせざるべからず、而して北海道物產共進會戰捷紀念博覽會其他に於て多くの賞牌を受領したるは實に本道工業界の爲め特筆大書して興業進歩の功を讃せざるを得ざるなり。

**精米業**としては二十二ヶ所あり其中最も盛大なるは共成株式會社、稲本合名會社、一麟精米株式會社、其他板谷合名、共立合資、北越株式會社等とす、清酒釀造は二十七ヶ所あり、醬油釀造は十五ヶ所其中重なるは石橋彦太郎、長谷川慶吉、鈴木市次郎氏等とす、製氷には北海道凍氷株式會社、小樽製氷合資の兩會社あり、前者は一ヶ年百六十萬斤、後者は同八十萬

斤を製す、製紙業は一ヶ所、製材工場としては小樽木材株式會社、實業木材株式會社、信濃製材所、小樽木挽所等何れも各蒸汽々鋸を備へ本道産の木材を製材しつゝあり。

造船業は目下小樽造船所あるのみ、電燈業は一ヶ所小樽電燈合資會社とす、汽鑵二個を据ゑて其の最大限力各二百五十封度、常用百五十封度、公稱馬力二百十、實馬力六百二十五を有し、現在市中に供給する電力三千燭に近く尚進んで五千燭迄の需用に應ずと云ふ、此外工場の見るべきものは北海道帝國鐵道廠附屬の手宮工場とす、廠工場は規模稍や大なるものにして木工、鐵工、其他各部に分れ、鐵道用の貨車、客車、並に鑵汽鑵の組立を專らとす、其他近來瓦斯、水力電氣、船渠、造船等の各事業を企劃するものありと雖も未だ其着手を見るに至らず、機工場は土屋鐵工場、林鐵工場、清水鐵工場、池鐵工場等其他とす。

小樽港と鐵道

小樽港の發展を促したる所以のもの蓋し一にして足らとす雖も鐵道の爲めに負ふ所亦少なからず、本道の鐵道は當初開拓使に於て之を敷設し明治十三年始めて當港手宮と札幌間二十一哩六十八鎖を竣工し翌年貨客の運輸を開始し、次で幌内の煤田に延長し是より石炭を當港に輸送するに至れり、爾來其鐵道は舊北海道炭礦鐵道に拂下げられ札幌より東北岩見澤に至りて分岐し、其一方は遥かに室蘭に達す、又幌内、幾春別、空知等の各炭鑛より産出する無數の石炭は其大部分は本鐵道に依りて小樽港に輸送せらる、加るに岩見澤以北瀧川に至りて接續し、尚旭川に至りて更に南北に分岐し、北に走るものは天鹽國を縱斷し、南に走るものは十勝を經て釧路に至り往々は根室に達せんとす、尚函館、小樽間の鐵道は南西後志國の各沃野を貫通し膽振に屬する噴火灣を沿ふて蜿蜒奔馳百五十七哩にして函館に達す、是れ等各





鐵道の延長及連絡は小樽港に注入する貨客の增加を倍々大ならしむるは勿論當港の繁昌を促進するに至れり。

今鐵道に依り當港に集散する貨客の數量を示せば去三十年は貨物四十九萬四千四百噸、價額千五百十七萬八千八百五十七圓、旅客三十九萬九千三百三十九人、亦三十九年は貨物實に九十八萬四千二百七十一噸、價格三千四百十二萬八千二百六十四圓、旅客六十四萬一千八十三人の多數に上れり以て小樽港の鐵道に負ふ所又大なるを知るべし。

小樽港と海運

海運も又た鐵道と共に小樽港をして愈々膨脹繁榮ならしむ、而して現今小樽港を中心とする航路關係を大別すれば、內地各港間對航路北海及南清對航路樺太及本道各港間對航路等にして、內地各港間對航路中定期としては當港及神戸港を基點とする郵船會社の東廻航路を主とす、其他社外船にして定期ならざるも殆んど日々出入を見ざることなきは、當港對兵庫大阪間の航路、馬關までの航路、伏木敦賀迄の航路、酒田新潟までの航路、土崎、船川迄の航路等にして何も日本海を航行して、中間の諸港に寄港するを常とす、また對青森及び東京横濱への間を不定期に航行するものあり、清國航路は上海、漢口、太沽、天津、營口等の南北に對し專ら木材及海産の類を輸送するものにして本航路に從事する船舶常に當港に繼ゆることなし、浦鹽航路は所謂日本海の命令定期船にして大阪商船會社之に從事し當小樽港を基點とす、其他樺太及本道各港間の定期には小樽、函館間小樽樺太間小樽稚內網走間の三航路及小樽天鹽間の航路にして、何れも補助定期に屬し郵船會社之に從事せり、而して三十九年中當港に出入したる船舶の數は七千四百八十隻、登簿噸數三百五十萬五千五百九十五噸にして之を前年に比すれば隻數に於て一千四百八十九、噸數に於て百三十

一萬三百六十二噸の增加を示し其增加割合の著しきは勿論是れ戰後小樽港の膨脹如何を卜知するに足るべく亦以て小樽港と海運關係の如何を知るに足るべきなり。

現今全國の港灣中能く夫れ一ヶ年百萬噸以上の貨物を集散するは神戸、横濱兩港の外當小樽港あるのみ、神戸及横濱港は其に太平洋に面し歐米各國に對し我國を代表する國際貿易港にして神戸港に於ける貨物の集散は一ヶ年二百萬噸を起え、横濱港は百五十萬噸乃至百八十萬噸を上下す、當小樽港亦た貳百萬噸を起え殆んど神戸港と伯仲の間に在り、然れども小樽港の地位或は此二港に比すべからざるものあるべしと雖も、今や日本海の沿岸中其主位を占むるは勿論本邦北部に於ける第一の貿易港なりと云ふも敢て誇稱の言にあらざるなり。

栗山回漕店の發展合資會社栗山組本店所在地は小樽區手宮町にして支店を札幌區に設置し全道各驛に出張所代理店取引店を設け從來の營業を擴張し其れに關聯せる港内舟運般、勞務及作業の請負等を併營に海陸接續貨物に就ては遺漏なく設備し取扱は誠實迅速に荷主の便利を計り一面各驛代理店取引店に對しては交互計算を開始し其發達を期し居れり。

●寺及●學●校

住吉神社は最德町にあり、慶應元年の創建にして社内廣濶殿堂壯麗明治八年郷社に列せられ、毎年七月十五日大祭を行ふ、其他の社寺九箇所あり、寺院は十二箇所あり、内本願寺別院、龍德寺、妙龍寺、量德寺等は安政年間の創立になれり、學校には廳立中學校を初めとし、私立除力學館、私立英和學校、私立有隣學校、私立商業學校等何れも中學程度たり、其他公立尋常高等小學校五、公立尋常小學校四、私立尋常小學校三、私立靜修女學校等あり、校舍の輪奐本道多く右に出るものなし。

●景勝●と●舊●跡

市街の中央に水天宮山あり、街衢を南北に分つ頂上に水天宮社あり、眺望絶佳なり、





公園地は花園町に、遊園地は手宮にあり、登臨すれば港内の眺望を恣まゝにするを得べし、高島の郡境ヲコハチ川の近傍海岸に奇岩二あり、土俗蛭子大黑石と號す、其形狀恰も蛭子大黑に彷彿たり、磯際汐干の際には帆立貝、ホッキ貝を漁るを得べし、風景亦極めて佳なり、其遊覽の價あるは築港事務所、高島水産試驗場等なりとす、舊炭礦會社手宮工場の裏道には一の石室あり、壁上に彫刻せる頗る畸形の記號あり、此記號に三種の說あり、曰く此れ古代の墓碣なり、曰く此れ古代の記念碑なり、曰く此れ結繩時代に於て文字に代るべき記號なりと、蓋しアイヌ祖先の遺跡なるか、將た其以前に住居せるコロポックルの遺跡なるか何れが正確なるか暫く記して好古の士の參考に資す、

●遊●廓

劇場には住吉座、大黑座、等あり。

は南北の兩所あり北廓は即ち手宮の新遊廓



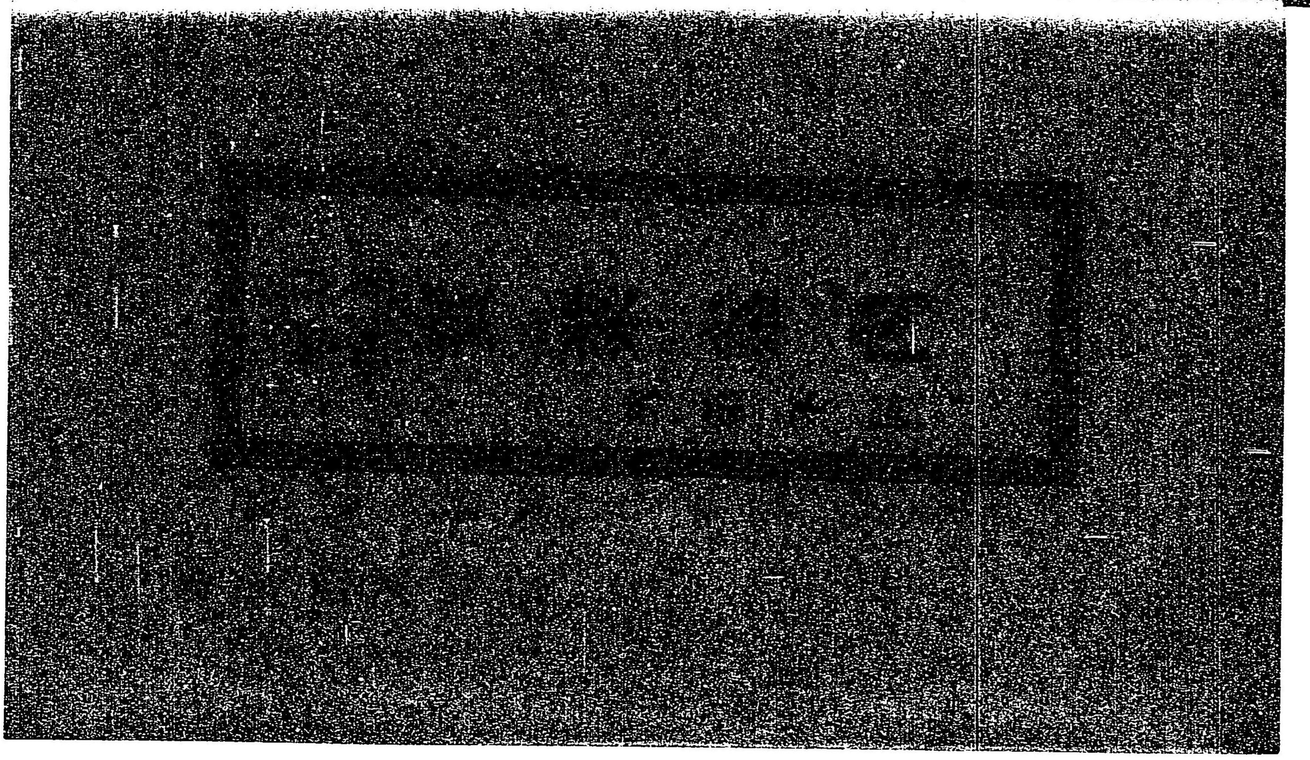
小樽區色内町
株式會社 二十銀行小樽支店
電話 長（二〇番）（四七四番）
支配人宅用電話（一、一一一番）
本店 東京日本橋
支店 東京深川、函館、小樽、釧路、根室、
爲替取引先内地各所及臺灣朝鮮樺要ノ地ニアリ
御預リ金諸貸出金諸爲替等一般銀行事務御便利確實ニ御取扱致候間無御遠慮直々支配人ヘ御相談被下度候

にして黄金町にあり、同地は舊本多正開氏の所有林檜園なりしを小樽製油株式會社の敷地として買入れたりしも會社を其榮町に變更せるを以て續て四十年十一月遊廓指定地となり目下同地主大島重作氏專ら同廓の繁榮を期し、區域の鐵柵其他檢徽所の新設等に巨額を放資し開業以來日增に新築家屋も增加し、現今貸座敷開業者中の重もなるは大文字樓、いろは樓、廣榮樓、日の出樓、松葉樓、北海樓、品川樓、彩雲樓等の外十數戸ありて頗る繁榮を極めつゝあり、御手宮公園と相接續し眺望絶佳而も中央停車場よりは僅々十丁馬車の便あるを以て漸次南廓の勢力を殺ぎ以て北廓に集中するに至らむ。

●旅店　區内屈指の旅館は豊越中屋上谷治三郎、扶谷伊六、菓秋山彦太郎、豊中上庄吉、菓土門旅館角十田小川旅館、小島旅館、豊越後屋辻旅館等とす。

●料理店　には色内亭、松の家、中島家、開陽亭、一二三樓、千登勢等を以て其最も有名なる高等の旅亭とす就中色内亭は小樽市街中央の高臺にあり其建築の如き壯大美觀にして客室最も多く都ての設備の完全せるのみならず、近く小樽港の全街を其脚下に瞰め遠く東北には石狩、增毛、天鹽の諸山高峯を望み其風光頗る佳絶、其位置の高燥なると建物の壯觀なるとは其風景の佳なるの點に於ては他に多く其比を見ず、松の家、中島家は何れも市街の中央頗る至便の地にあり、其建築の如き最近に係り客室を增築し而かも意氣を極め粹を蒐め、萬般の設備整ひ、其取扱の行屆きたる加るに庖丁の鹽梅の如き各々其最も自慢とする所の有名の料理店なり。

●ビヤホール　には入舟町東條軒、公園通りには高橋等ありて最も繁昌しつゝあり。



日高
膽振

# 實業案內

次第不同

米穀、酒類、雜貨、
荒物、鹽元捌業
函館煙草元賣捌
合名會社支店

日高國浦河港
奥山千春
電略(チク)又ハ(チ)

京谷旅館
日高國浦河港



吳服太物、米穀、
雜貨、海陸物産商
日高國鳬舞港
村田榮吉本店
電略(〇タ)

同國三石港
村田支店
電略(ムシ)

海陸物産委托
問屋
函館區末廣町卅四番地
函館村田支店
電話三四六番
電略(ムラタ)又ハ(ム)

海陸物産、米穀、雜貨、
吳服太物、和洋酒類商
日高國三石郡三石港
出口官三郎本店
電略(ヤマテ)又ハ(テ)

吳服雜貨商
同國同郡歌笛村
出口支店
電略(ヤマテ)又ハ(テ)

米穀、雜貨
荒物、太物商
海陸
物產委托賣買

日高國浦河港
奥田惣兵衛商店

日高國浦河港
浦河醫院　院長山田富太郎



吳服太物、雜貨
荒物、和洋小間物商

日高國樣似郡樣似
本間爲次商店

鰹節製造業
蒲鉾製造元
卸小賣商

日高國浦河港
增子駒吉商店

米穀、荒物、雜貨、
海陸物產委托賣買
官營鹽煙草　商

日高國浦河港
奥谷清商店
電略（〇ヲ）又ハ（ヲ）

太物、米穀、和洋酒
和洋小間物類、塗物
瀨戸物、雜貨
其他日用品一式

日高國浦河港
瀨尾利八商店

物品販賣業
仲立業

日高國浦河港
西口右平商店

有隣生命保險株式會社浦河代理店



御料理

日高國浦河港
高砂

旅館

日高國浦河小學校前
奥山旅館

靜內回漕合資會社

日高國靜內郡靜內村下々方港
代表者　加地幸次郎

會席仕出し
御料理
日高國浦河港
竹川亭

きそば
即席御料理
日高國浦河港
竹の家



和洋金物度量衡販賣
日高國浦河町六十六番地
高木德治

海陸物産、委托賣買、倉庫業
日高國浦河町百〇三番地
日高産業合資會社

吳服太物、米穀
雜貨、海陸物產　商

〇

日高國三石港
小山田定吉商店
電略（ヤマ〇）

國定教科書三石販賣所

回漕業

東京海上保險
株式會社代理店

ス

日高國三石港
山口慶松
電略（〇ス）又ハ（〇）

漁業

日高國三石港
小林重吉
電略（ス〇）又ハ（ス）

吳服太物、
米穀、雜貨
陸產物委托賣買　商

は

日高國三石郡三石村大字幌毛村
坂東秀太郎商店
電略（ヤマハ）又ハ（ハ）

銘酒 北門 靜の井

醸造販賣 靜內酒造株式會社

日高國靜內郡靜內村字下々方村

醤油

味噌

○新冠御料牧場御用達

米穀 雜貨 荒物 商

其他日用品一切

竹一商店

日高國下々方局配達區內
電略（タケ一）又ハ（タ）

度量衡器販賣所
官製鹽、煙草小賣所
砂金、毛皮買入所

○有隣生命保險株式會社代理店

輸出營業種目

○丸太材及野角類
○諸杢板子材及板類
○建築用製材類
○銃床木及下駄棒類
○高等木材類
○海具洋樽材及橋梁用材類
○魚箱及雜貨箱類

日高國靜內郡靜內村下々方港

竹一商店木材部

三石旅館

驛遞取扱
兼旅館

日高國三石郡三石村
小林悅太郎



牧畜業

瀨川芳藏

日高國下々方村

旅館

藤原代藏

(日高國靜內郡下々方)

△客室增築落成
△總ての設備完全

△宿料低廉無比
△取扱懇篤

○營業科目

吳服太物、和洋小間物商
米穀、雜貨、荒物商
其他日用品一切
幷ニ
雜穀問屋
官製煙草、鹽賣捌所

日高國靜內郡靜內村下々方港
木村外吉本店
電略(キムラ)又ハ(キ)

同國沙流郡門別村大字厚別
木村外吉支店
電略(キムラ)又ハ(キシ)

●竹森造船所　竹森伴助氏の經營に係り去る明治廿九年の創設にして專ら造船業を主とし後ち同三十八年に至り更に其規模を擴張して鐵工場を新設し汽鑵一臺を備付け五百噸以内の汽船を造船若くは修理し毎年平均の上架修繕の汽船は五十艘を下らずと云ふ。

●稻穗博物園　當園は稻穗町中央商品館の西側に在り本年七月一日より開場し娯樂に供するの傍ら博物學上の智識を普及せしむる爲め諸種珍奇の古器物、鳥獸類、同上剝製品、盆栽類、歷史上に關係ある活人形等を陳列し公衆の觀覽に供す其建物中六角樓上は海陸の景趣に富み市街熱鬧の地に於て一の閑雅幽邃なる遊覽所なり。

## ●室蘭町

●位置　室蘭港は本道第一の大灣たる内浦灣の東端海水の深く陸地に灣入して又一灣をなす之を室蘭灣と云ふ、其南にあるを室蘭町となす室蘭町は膽振國室蘭郡の南端にありて、南東より西北に屈し稍弓形を存せる半島にして、南東一帶渺茫たる太平洋に面し、西は内浦灣に瀕し、北は室蘭灣に枕み、其北岸にある室蘭輪西の二村に對し北東は僅に一小山脈を以て輪西村に連る、地勢山岳丘陵多く平地は極めて少なし、東南より西部に至る海岸一帶斷崖絶壁をなせる所多し、而して半島の西部は稍廣く市街の南東に至りて甚だ狹まり其幅僅に五六町に過ぎず、西北にシクドッ岬突出し東にエトチケレッポ岬あり、北に向つて一港を開く中部にチャシコツ岬突出して港口を東西兩部に分つ、西は所謂室蘭港にして港内廣く、水深くして南方と東方には丘陵相迎り以て風浪を遮ぎり大艦巨舶を安全に碇繫するを得、實に本道南東海岸中函館に次ける良港なり、灣口に大黑島あり島上燈明臺を設けて航海者に便せり。

●沿革　開拓使以前に於ては「アイヌ」岬幷猪九郎外一戸トカリモイに住居し、和人は唯漁業の爲め元

●竹森造船所●　竹森伴助氏の經營に係る明治廿九年の創設にして專ら造船業を主とし後ち同三十八年に至り更に其規模を擴張して鐵工場を新設し汽鎚一臺を備付け五百噸以内の汽船を造船若くは修理し毎年平均の上架修繕の汽船は五十艘を下らずと云ふ、

●稻穂博物園●　當園は稻穂町中央商品館の西側に在り本年七月一日より開場し娯樂に供するの傍ら博物學上の智識を普及せしむる爲め諸種珍奇の古器物、鳥獸類、同上剝製品、盆栽類、歷史上に關係ある活人形等を陳列し公衆の觀覽に供す其建物中六角樓上は海陸の景趣に富み市街熱鬧の地に於て一の閑雅幽邃なる遊覽所なり。

## ●室蘭町

●位置●　室蘭港は本道第一の大灣たる内浦灣の東端海水の深く陸地に灣入して又一灣をなす之を室蘭灣と云ふ、其南にあるを室蘭町となす室蘭町は膽振國室蘭郡の南端にありて、南東より西北に屈し稍弓形を存せる半島にして、南東一帶渺茫たる太平洋に面し、西は内浦灣に瀕し、北は室蘭灣に枕み、北北岸にある室蘭輪西の二村に對し北東は僅に一小山脈を以て輪西村に連る、地勢山岳丘陵多く平地は極めて少なし、東南より西部に至る海岸一帶斷崖絶壁をなせる所多し、而して半島の西部は稍廣く市街の南東に至りて甚だ狹まり其幅僅に五六町に過ぎず、西北にシクドッ岬突出し東にエトチケレッポ岬あり、北に向つて一港を開く中部にチャシコツ岬突出して港口を東西兩部に分つ、西は所謂室蘭港にして港内廣く、水深くして南方と東方には丘陵相迫り以て風浪を遮ぎり大艦巨船を安全に碇繫するを得、實に本道南東海岸中函館に次ける良港なり、灣口に大黑島あり島上燈明臺を設けて航海者に便せり。

●沿革●　開拓使以前に於ては「アイヌ」岬竹清九郎外一戸トカリモイに住居し、和人は唯漁業の爲め元

室蘭より住復せしに過ぎざりし所明治三年片倉氏の支配となるや其良港たるを認め同年家臣をして漁場を開かしめ、同四年六月幌別よりトカクモイに至る四里廿二丁の細徑を開けり、是に於て日野愛烹、高橋詠蹄等札幌より移りて開墾を計畫せり偶々開拓使函館札幌間の道路を開墾するに際し現時の元室蘭に港を設くる計畫なりしが、同五年四月トカクモイの良港たるを發見し茲に港を開くに決し、元室蘭に回漕したる木材其他の物品をトカクモイに轉漕し諸般の設備に着手せり、同六年六月札幌迄の陸路開通し當港は漸次樞要の地となり各地より轉住するもの增加して百餘戸に達せり、於是町名を設け札幌通りと稱す亞で數箇の町名を附す、當時函館小樽間の航路未だ發達せず函館札幌間の旅客貨物は主として當港を經由せり同七年一月開拓使工業局出張所を置き蒸氣木挽場を設け物ら造船をなせるを以て非常に進歩をなし、


登録商標

三菱印

藥用ブランデー

發賣元

内田勇太郎商店

東京市神田區

小樽特約店

壽原合名會社

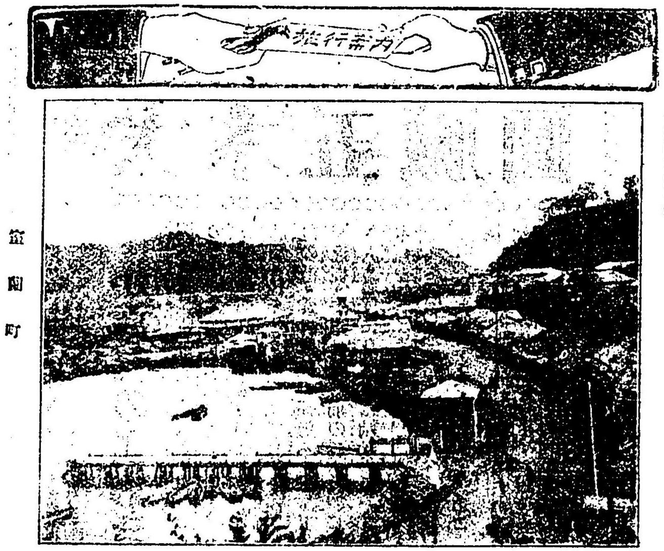
松吉直兵衛

佐々木善吉

三谷合名會社支店

金子定一郎



宣園町

同十年には人口約千人に達せり、然るに同十一年工業出張所は其規模を擴張したるのみならず函、札間の交通は漸次小樽港に變じ、同十四年札樽間の鐵道開通の後は旅客貨物復た當港を經るもの稀なり、同十五年官設諸工場は之を廢止せるを以て爲めに其後年々市況沈靜し僅丹、帆立貝等の生産によりて生活する有樣となれり、同二十一年炭鑛鐵道布設の許可あるや人氣暴かに活潑となり土地の賣買盛んに行はれ地價著しく騰貴せり、同二十三年三月當港を第五鎭守府に豫定せらる、又從來肥料に製して輸出せる鰊粕の類は生魚の儘函館に販出さるゝに至りしのみならず、同二十五年鐵道工事落成して石狩國夕張地方に生魚の販路を開けり、此年濱町の海面五千餘坪を埋立て之を海岸町と名づく、同二十六年日本郵船會社は青森より函館を經て當港に至る定期航海を開く、是に於て直接府縣と交通するの便を得函、樽間の旅客、

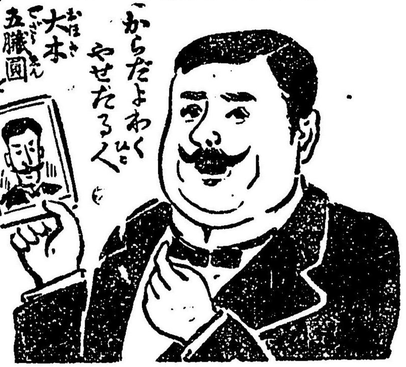
滋養強壮之大王

# 大木五臓圓

!!! 注意——五臓圓には偽物多し !!!

## からだのよわき人

例へば性來虚弱にて痩せ細り或ひは病後の●衰弱●老衰●貧血症●神經衰弱●心臓病●動悸●息切れ●盜汗●癇癪ぶり怒り易き症●肺病●たんせき●ぶらぶら症●不眠症●血の道●殊に產後の經過不良症●其他氣力減乏症●平素身體薄弱の爲め病に罹り易き人●過度に身體或は精神を費す人等は本劑を用ひて最も適當す其結果としては諸病全治し强壯肥滿になること實に暗中に炬火を觀るよりも猶明かである

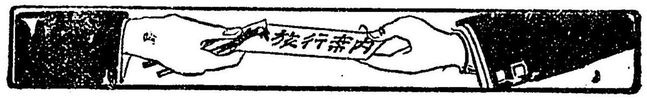



**藥價** 二日分十五錢四日分卅錢七日分五十錢十五日分一圓卅五日分持藥用特別割引金貳圓送料定價外

東京市日本橋區兩國米澤町一丁目
元祖本舗 大木口哲本店

東京市神田大通り鍛冶町
發賣元 大木合名會社

本劑は全國到る所の藥店に取次あり


は復た當港を經るに至れり、同二十七年當港を特別輸出港となし又窯炭礦鐵道の延長を許可せらるゝ因で來住者俄に增加せり、同二十九年鐵道工事に着手し之に從事する職工人夫は勿論諸種の商人增加し頗る繁榮を極む、同三十二年七月更に開港場となし石炭、麥、硫黄其他規定の物品に限り輸出するを得るに至れり、同三十三年七月一級町村制施行せられ繪鞆村及輪西村に屬せしエトチケレップとを併せて獨立自治の町となりたり、同三十七年十一月北海道鐵道の函、樽間の全通に依つて旅客の當港を經由するもの大ひに減じたりと雖も、三十八年中海岸町の埋立工事竣成を告げ四十三年度に於てエトチケレップよりチャス島へ渉りて炭礦汽船會社にて十三萬坪、室蘭町にて六萬八千坪の埋立工事に着手すべく、近き將來に於て膽振鐵道の開通するの曉に至らば實に當港は全道に通ずる中央線となり、風景絶佳なる洞爺湖沿岸に通ずる樞要の地たるに至るべきなり。

**市街の概況** 當港の市街は始め北西部の高臺に設けられ漸次南東に及び又海面を埋立てゝ擴張せり之を分て九町となす札幌通は舊埠頭より東に向ひ札幌に通ずる本道にして各町中最も長き町なり西小路町、澤町、幕西町は札幌通より西方に分岐せる小巷なり、常盤町本町は札幌通の南西にありて南は外海に面す、濱町千歳町は其北に位し、海岸町は海岸に沿へる埋立地にあり、市街中最も繁華なる所は札幌通なるか海面埋立の工事成りて新機橋の海岸町に築造せられ旅客の昇降此に移りしより景氣は海岸町に推移しつゝあり、濱町幕西町は之に次で稍々賑かなり、本町は地積廣けれとも人家多からす、室蘭支廳、町役場、稅務署、漁業組合事務所、北海道銀行支店其他重なる商賈は何れも札幌通にあり、區裁判所尋常高等小學校、警察署は本町に、妓楼は幕西町に、劇場は千歳町に

税關支署、停車場、郵船會社支店、各旅人宿、回漕運送倉庫等の諸會社は海岸町にあり、其街衢たるや元來其大部分は丘陵を削り海面を埋めて道を通し家を建てしを以て其狀態は整正ならず。

●商工業　明治二十五年の頃より稍々商業上に於ける面目を一新し軍港豫定地となり、また舊炭礦會社の此地を基點として石炭の輸出をなすに至りし等の事情の爲めに大ひに商業發展の機運を與へ以て今日の盛況を見るに至れり、今試に重なる會社商店を列擧せば北海道炭礦汽船株式會社、日本製網所、栗林海陸運漕店、谷鹽油釀造場、今井合名會社支店、最上谷商店、札幌倉庫株式會社出張所、北海道銀行支店、室蘭產物會社市場、室蘭共成株式會社佐々木海陸運送業等とす。

●農漁業　水產物は特に著しきものなしと雖も寒暖の潮流其の近海に於て抱合し、且つ外海灣內を腹背にせる故に魚介の類は自ら多くして漁期も又久しきに亘り販賣上の便宜あり、其重なるものは鰯、鮭、鱒、鱈、鯨、鯨、鯨

當港に支店を置き噴火灣内紋鰲、虻田、辨邊等の諸港と函館との間を隔日に航海し往復とも當港に寄港し鐵道との連絡を謀れり、其他陸地は鐵道により札幌、小樽、旭川、夕張炭山等に通ず、札幌を距る百十一哩餘、小樽へ百三十一哩餘、旭川へ百四十七哩餘なりとす、殊に小樽札幌に至るには毎日二回の直通列車ありて交通甚だ便なり。

**當港近時の發展**　當港は北海道の榮養を吸收する口舌の一たるは今更云ふまでもなし、其過去を顧れば其進歩や歴々として指示し得べきものなくんばあらず、去る明治十九年に於て戸數百九十一、人口千二百六十四人なりしもの一躍して同三十八年の調査に依れば戸數二千二百四十七、人口九千四百十五人の多きに達せり、之れ進運に伸ふ自然の現象なりと雖も如何に當港が急劇なる速度を以て進歩しつゝあるかを知るに足るべし。

試みに近時に於ける當港の事業發展の狀況を見るに、炭礦流船株式會社は當港に於て製鋼事業を開始するの目的にて、明治四十年三月七日英國アームストロング會社、同國ヒッカース會社と北同經營の契約を取結び、株式會社日本製鋼所を創立することゝなり、呉鎮守府司令長官山内中將は勅許に依り現職の儘同製鋼所の顧問となり、近き將來に於て斯業に從事すべき職工の當港に來住すべきもの七八千人の多きに達し當港一般の狀態は大に變化し茲に一生面を開くに至るべきなり、其他新夕張炭山は室蘭埠頭に一大鐵棧橋を架設し直ちに本船を横着にし將來百萬噸迄の輸出を期する目的を以て着々進行しつゝあるのみならず、其他三井物産會社は日高方面に鐵道を布設し盛に木材を伐出し當地に一大製材所を設置すべき計畫あるが如き尚虻田鐵鑛は其採掘の事業を擴張し水中を利用して電氣鐵道を以て當地に礦石を搬出せむとするの計畫あり、其他諸種の事業は勃然として興らんとしつゝあるの趨勢を示せり。

此の如く室蘭は多くの會社と多くの事業に依り今や其面目を一變せられむとしつゝあるが遞信省に於ても又當地の現在及び將來に察する所あり、先四十年度に於て茶津の鼻より荷停車場に至る一帶を貨物置場用として埋立て、其終點則ち茶津の鼻より日本製鋼會社の突堤と併行して棧橋を作り、尚現在の隧道の外に複線を通過せしむべく隧道を作りて鐵道と棧橋を連絡せしめ以て木材類の揚卸に便する目的なるも、尚同省の計畫は之に止まらず將來に於ては現停車場の先より石炭の揚卸に供すべく棧橋を突出し大船巨船を横着になさしめ、尚進んで舊波止場より祝津の鼻までを埋立て、別に燈臺の鼻より棧橋を出して之に高架式鐵道を連絡せしめ以て貨物の揚卸を便にするの目的にて漸次之に着手するの設計なり、此他日本製鋼會社には本年中に竣工する豫定を以て茶津の鼻より千二百尺の突堤を作り、エトスク邊より鐵道を分岐して連絡せしむる計畫あれば大船巨船を繫留するに足る四個の棧橋を得皆な一々鐵道に連絡するのみならず、輪西方面に於てはエントル石油會社が村役場の前方を埋立てゝ石油精製所を設立し此に鐵道の支線を敷設せんとして目下出願中なるあり、是等總てが成工の曉に至らば實に室蘭灣は鐵道を以て回され加ふるに數個の棧橋突堤は海中に伸びて百足蛇の如く、日本全國中恐らく他に比類なき所の雄大なる港灣となるべし、此に至りて當港の前途は果して那邊にまで發達すべきか今日に於て殆んど豫測し難きものあらむ。

**噴火灣汽船株式會社**　は室蘭丸、振洋丸、膽洋丸の三艘を以て函館・室蘭間の定期航海を爲し函館を毎日午後六時に出帆し翌午前三時に室蘭に着し室蘭を午後八時に出帆し、翌午前四時函館に着す從來は郵船會社の定期航海ありしも廢航となりし

を以て今は同會社の專屬となりしを以て同會社は船客及貨物輸送上に關し鋭意熱心に出來得る限りの便宜と迅速を旨とし交通機關の圓滿を企圖しつゝあるを以て荷客共に至便の利あり、又同會社は室蘭と最も利害上の關係深き西紋鼈、虻田、辨邊等の航路に向つてはいろは丸を以て定期船に充て尙此他膽洋丸、振洋丸を以て補助船とし何れも毎日午前六時三十分室蘭を發し各所に寄港して午後四時室蘭に歸港しつゝあり而して函館、室蘭間一等二圓五十錢、二等壹圓八十錢、三等壹圓廿錢、室蘭、西紋鼈間五十錢、同虻田間七十錢、同辨邊間八十錢の賃金なりと云ふ。

●遊覽案内　▲海水浴老名牛の濱、時雨の磯及びボンモイ等の邊最も海水浴に好適す、旅館には丸本、丸一、丸七等とす▲登別溫泉（登別驛の記事參看）▲壯鼈の瀧▲洞爺湖伊達村西紋鼈より白山鼈を迂回し三里にして壯鼈瀧に達すべし、北海第一の大瀧にして其偉觀他に類なし、坂路僅に三丁にして洞爺湖畔に達す湖中無數の島嶼は洞水に漂ふが如く、遠く蝦夷富士を望み、其風光絶佳一日の船遊仙境に在るの感あらん、旅館にに手代木、小野等ありて些の不便なし▲辨慶、幡溪の爾溫泉壯鼈より二里半幡溪は三里なり深山幽谷山容水姿の所にあり何れも一日の清遊に適す。

●料理店と妓樓　旗亭は二十有餘の多きありと雖も菊水、常盤樓、壽亭、巴川等を以て名あり、妓樓は武藏樓、蛇の目樓の外函館大火後同地有名の武藏野樓主（武藏祐五郎）は居を此地に移し矢張り舊名武藏野樓と稱して壯大なる建築を爲して盛んに營業を爲しつゝあり。

●海陸運輸待合所　停車場に附屬せる同待合所には一定の服裝をなせるボーイありて、旅客海陸の送迎より手荷物の運搬切符の購入等無賃にて其取扱ひをなすを以て旅客は座しながらにして諸種の用





を便せしむることを得べし、又た西洋料理其他飲食に付ての設備も完備しあれば旅客の利便此上なし。

●旅館　旅館の數多しと雖も家屋の建築、室内設備の完備せる取扱の誠實なる所の高等旅館は丸本、創成館、丸一、蛇子の二旅館を以て第一となす。

▲伊達村　室蘭港より噴火灣汽船株式會社の汽船に乘傳に一時間にして有珠郡紋鼈（伊達村）に達すべし、伊達村は鶴仙臺の支藩伊達邦成男の開拓せし有名なる農村にして、其廣袤東西六里十二町南北四里に亘るの面積を有し、東北は有珠岳に朝せる連峯群岳を負ひ、西南は遠く駒ケ嶽を瞰て噴火灣に面す本村は卅三年七月一級町村制實施の際東紋鼈、西紋鼈、稀府、長流、黄金澤、有珠の六村落を一團と爲し、之を總稱して伊達村と改む、（伊達男爵の拓殖上の功績に因みて命名せしと云ふ）回顧せば伊達男の舊領地たる伊具、亘理の二郡は維新の際闔藩減封の内に屬するを以て其臣一千三百六十二戶其人員約八千人は殆んと其歸する所を知らざるの窮境に陷るに至れり、於是邦成男以爲く今や蝦夷地の警備一日も忽にすべからず之れを擧げて該地に移住し兵農共に兼ね荒原を開墾して國產を增殖し一朝事あるの日は矛を采て起るには聊か君恩に報ゆるを得んと、則ち廣澤參議に新て上申に達し勅許を得て率先移住を企て、明治三年以來舊臣數千と共に臥薪嘗膽の苦楚を嘗ねて開拓の事に從ふ此間邦成男は一意專心開墾の業を勵み耕耘の方法を改良し或は畜産の業を盛んにし後ち屯田兵制を施るゝや壯丁を擇んで之に應せしめ以て初一念の貫徹に努め、爾來日進月歩駸々として農耕頓に進み商勢隨て革り明治四十一年末の調査に於ては戶數二千〇廿四戶人口壹萬千百十三人を有するに至れり、同四十年十月未曾有の大火に遭ひ市内繁盛なる民家百五十餘戶は烏有に歸したるにも拘らず進運の氣勢に在る同地は忽ちに舊態に恢復し以前に優れる殷盛を加ふるに至れり、同地未だ未開の沃野廣原尙多々あり今や着々歩を進めて豐饒の地に化しつゝあり、將來の發展蓋し計り知るべからざるものあらむ。

●市街　の最も繁榮なるを網代町とす之に亞ぐを濱

町、浦濱町、末永町とす、亦商店の重なるは高田呉服店、齋藤、多田、藤森、増岡、等の各店は何れも信用ありて繁盛を極む。

●農産　の主産地にして四十一年十二月の調査に依れば耕地八千三百町歩にして其産物は大豆二萬二千石、小豆五千石、蓼藍四千七百石、亞麻九十萬〆、亞麻種三千九百石、葉藍三萬六千〆、雜穀弐萬二千石、其他葉果、野菜其他のものを合せば其一ケ年に於ける總産額は實に一百萬圓を超過すべしと云ふ。

●工場　としては帝國製麻株式會社の製綫工場ありて其他有珠郡産牛馬組合の種畜場ありて外に有志組合の經營に係る種畜場一ケ所あり道廳に於ても同地に於ける種畜業には多大の注意を惹起しつゝあるを以て近き將來一層斯業の發達を促すに至るべきなり。

## ●御崎驛

當驛には殊に記すべきことなきも炭礦汽船會社の四炭山に供給すべき精米所及び貯炭所等あり、其他谷貯炭場も此地にありて唯貨物列車の停車するのみにして乘客を取扱はず。

## ●輪西驛（公衆電報取扱驛）

當驛は室蘭を距る二哩四十五鎖の室蘭郡輪西村にあり、明治二十一年石川、鳥取、福岡、兵庫の各縣より屯田兵を移住せしめたる地にして、戸數二百餘戸、秋冬の候鴨白鳥の群集するを以て遊獵に好適せり。

## ●鷲別驛（公衆電報取扱驛）

當驛は膽振國幌別郡鷲別村にあり戸數百餘戸人口五百餘の一漁村に過ぎず。

## ●幌別驛（公衆電報取扱驛）

當驛は幌別郡幌別村にあり明治三年片倉家一族の始めて移住したる地にして、現今の戸數二百八十餘戸人口千三百八十餘なり、片倉農場所在地にして住民の大半は仙臺人なりとす。▲温泉停車場を距る三里十五丁道路平坦馬車の便あり、泉質は





無色透明にして僕麻質斯、皮膚諸症、生殖器病、腦病に特効あり、停車場より乘馬三十錢馬車賃六十錢なり、旅館は市田と云ふ宿料廉にして一泊五十錢内外に過ぎず。

## ●登別驛

當驛は幌別郡登別村にあり室蘭を距る僅に十六哩にして彼の有名なる登別温泉に到るの驛なり▲登別温泉　停車場より平坦の道路を西方に行くこと一里二十八丁にして温泉に達す、馬車賃は一人片道三十錢、六人乘一圓八十錢、乘馬賃は五十錢なり婦女と雖も徒歩に困難ならず、温泉は海面を抜くこと六百六十尺の高地にあり、奇巖怪石の間噴煙濛々として絶へず其壯觀雄大の狀恍として身の塵界にあるを知らざるの思あり▲勝関の瀧登別川の本流を溯ること十八丁の地にあり▲旅館には瀧本丸一谷の二高等旅館あり、一等一泊料二飯一圓十五錢、一飯六十錢、二等一泊二飯八十五錢一飯四十五錢、三等一泊一飯三十錢なり三日以上滞在は一圓五錢より七十錢迄とす。

## ●敷生驛

當驛は膽振國白老郡白老村にあり、敷生本村は十餘丁の北方の地にあり、有名なる西牧場は南方十餘丁の所にありて良馬を産するを以て名あり。

## ●白老驛（公衆電報取扱驛）

當驛は白老郡白老村にあり、此地は舊アイヌの部落地として有名なる地なり、白老地方は鰊の漁獵地を以て聞ゆ、所謂榊前粕と稱する肥料の産地は此附近一帯にて製造するものを云ふ▲アイヌ部落

停車場を距る五丁の所にあり、戸數百餘人口五百餘にして生活の有樣家屋の構造等蝦態を存し其起源最も古きを以てアイヌ種族に就ての研究に資すべき材料に乏しからず。

## ◉錦田峰驛（公衆電報取扱驛）

當驛は膽振國勇拂郡錦多峰村にある泉農場の所在地にして農業適地たり、錦多峰川は停車場より十二丁の西方にあり。

## ◉苫小牧驛

當驛は勇拂郡苫小牧村にあり村役場、御料局出張所、置栽判所、郵便局、村立勇拂病院、小學校警察分署等あり、本驛は此の沿線中最も早く開けたる土地なるも市街は海に沿ふて戸數僅かに二百餘戸に過ぎざる一漁村に過ぎざりしも今回王子製紙株式會社の分社創設せらるゝに至りしを以て俄に人口增加して四百五十餘戸に達す、尚本驛より千歳へ（鮭の孵化場の所在地）七里、島松、土里札幌、十七里にして札幌へ通ずる道路の要點たり。

●王子●製紙●株式●會社●の●分●社●設●立●本驛を云る七里支笏湖の水力を利用し製紙事業を擴大するの目的を以て當所に同社の分社を設立し、一ケ年の原料木材五萬尺〆を用ひ鐵骨煉瓦造の建造物一萬坪に、機械百四十二インチのもの二臺と百インチのもの二臺を据付けるの設計にて、百四十二インチの機械は米國を除く外獨逸に一臺あるに過ぎざる世界に稀有なる精巧なるものにして、一分時に優に五百呎を製出するの實力あるものなり、職工の如きも五百有餘人を使役し諸般の工事及び設備の如きは四十二年中に竣成の見込なり、營業開始は四十三年三月の豫定にして目下同社の取締役にして分社長たる辣腕家の聞え高き前山久吉氏專ら其の經營の任に當り、技師長としては米國工學士高田直屹氏其工事を督しつゝあり、營業開始の曉は本道工業界の爲め稗益する所鮮からざるは勿論延いて本驛の繁榮を促すに至るべきや疑ひなきなり。

●旅館●と●料●理●店　旅館は丸太印木村は市内中央にして而かも清潔に加ふるに取扱丁寧にして本驛第一の旅館たり高等の旅亭としては曲仙印喜樂亭、西川とす喜樂亭は建築壯大にして眺望頗る絶佳、西川は輕便と庖丁鹽梅の自慢とを以て聞ゆ二者何れも當處に於ける好旅亭として恥ぢず。

## ●沼の端驛（公衆電報取扱驛）

當驛は勇拂郡苫小牧字沼の端にあり、沙流、新冠、静内、浦河の各方面に通ずる要地にして人口三百餘の村落なり▲好●獵●地　停車場より十八丁俗稱ウツナイと云へる沼あり春秋の候雁鴨の群集するを以て最も遊獵好適地を以て沿道第一の地なりとす。

●旅●館　荒井支店最も信用あり

## ●遠淺驛

當驛は勇拂郡安平村字遠淺にあり農業牧畜を以て有名なる土地なり。

## ●早來驛（公衆電報取扱驛）

當驛は勇拂郡安平村字早來にありて工業地を以て聞ゆ、其重なるものは東京櫻組製澱所、三井物産會社の製材所、早來木工所（八木幸四郎、三谷松之助二氏の共同事業）▲永●谷●製●材●所●は本驛を距る三哩勇拂郡厚真村字知決逸にあり、永谷仙松氏の獨立經營にして其規模の如き頗る壯大にして、

最近一箇年の製出高枕木のみにても四十萬挺（十二萬石）に達せり、尙業務を擴張し盛大に製出に從事しつゝあり。▲温泉　停車場を距る十二丁の所にあり、泉質は澄明微黄色の冷泉にして酸化水素臭を含み、皮膚病、子宮病、梅毒、僂麻質斯、疥癬、胃加答兒、腺病に特効あり、長命館と稱する旅館ありて宿料最も低廉加ふるに滴泉幽邃にして頗る眺望に富み、轉地療養地として適當の好地なり、物産　としては特殊に記すべきものなきも木炭、軸木、枕木、木材、米、大豆、小豆、蕎麥等にして木炭の如き一箇年の當驛の輸出高百廿萬貫、木材四萬二千噸、米二萬俵其他の農產物同約三萬二千俵あり米の如きは栗山に亞げる產出地として有名なる所たり、又回漕店として、早來運送部に於て最も機敏に取扱ひつゝあり。

旅館　曲木旅館あり。

杉本本店

東京市日本橋區新材木町一番地

電話浪花長一九八
電信略號（スキホ）

杉本支店

東京市日本橋區堺町一番地

電話浪花二一二七九
電信略號（スキシ）
振替貯金口座四〇九參番

**漁業一覽**

日高國浦部門別村

**鶴川外吉**

**雜貨**

**目薬**

**煙草**

**酒類**

**菓子**

**文房具**

**小間物類**

**商**

日高國浦部門別村

**中村乙松商店**

營業種目

呉服太物、荒物
和洋小間物
米穀雜貨

前田房太郎商店
日高國沙流郡佐瑠太
電話(マエタ)又ハ(ニ)

各國有功藥舗
牛しん熱解
博養散
(一名ないら妙藥)
牛馬傳染病
一切の靈藥
製劑本舗
松浦博養堂
膽振國勇拂郡鵡川
電話(マツ)又ハ(ハク)

米穀雜貨
荒物雜穀商
日高國沙流郡門別村大字佐瑠太
石井祐吉商店

吳服太物
米穀雜貨
商

## 佐々木理助本店

吳服太物
米穀雜貨
商

## 佐々木理助支店

木材製
販賣
所

## 佐々木工場

木材商

## 佐々木清水熊太郎

## 旅館

## 佐々木松本ヶ二

膳振國乃拂郡越川

膳振國苫小牧

佐藤

吳服洋物店

內科
小兒科 專門

長澤內科醫院

院長
醫學得業士 長澤俊藏

金物陶器硝子類一式
度量衡器販賣

膳振國苫小牧
森商店
店主 森甚兵衛

吳服大物 和洋酒 雜貨
タンタン池一手販賣
日本生命保險株式會社代理店
有隣生命保險株式會社代理店
太平生命保險株式會社代理店

膳振國苫小牧
村山壬子郎

海產物卸商

膳振國苫小牧
石垣彥三郎

米穀類 吳服太物
日用雜貨商

膳振國苫小牧
高橋久太郎

魚菜類委托販賣商

三星合資會社

見服太物日用雜貨商

南甚平

小保方運送店

林理作

吳服太物商

門脇龜次郎

膽振國苫小牧

和洋菓子製造
卸小賣
日用雜貨

板倉本店
同停車場前分店

膽振國苫小牧

魚菜類委托販賣商

木村茂三郎
同委托部

膽振國苫小牧

客室清潔整備
食料低廉新鮮
取扱丁嚀親切

藤號旅館

膽振國苫小牧

伊藤四郎

委托測量土木設計
代書業
膽振國苫小牧
原竹次郎

煙草
雜貨商
室蘭港母戀東町角
飯島商店

萬漬物、雜貨
和洋酒類商
室蘭港母戀大橋地所部
白井幸一商店

吳服太物、洋酒類
金物類、荒物、雜貨商
帝國生命保險株式會社代理店
膽振國早來
越後屋商店
電話三三番

和洋酒類
諸雜貨商
反物仕立物
其他日用品一式
有隣生命保險株式會社代理店
膽振國早來
八木商店
電話一三番

英國グラスゴーノーベル特約一手販賣

營業品目

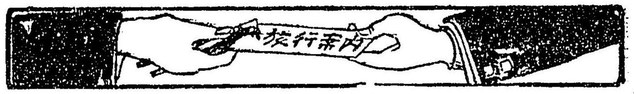
○獵用火藥
○散彈雷管
○ダイナマイト
○鑛業火藥
○セメント
○電氣雷管
○カーバイト
○水陸導火線

舶來板硝子

室蘭港千歳町五番地
三田室蘭支店
（電話二六六番）

耳鼻咽喉科
皮膚病梅毒科
泌尿生殖器科
產科婦人科
齒科、外科
眼科、小兒科

室蘭港母戀市街地
大町通四丁目三番地
母戀醫院
院主
前田幸齋



安平驛、追分驛

## ●安平驛（公衆電報取扱驛）

當驛は勇拂郡安平村にあり此附近は水田好適地として有名なり、安平村本村は停車場を距る十八丁の東北にあり戸數約七十餘戸ありて地味肥饒水田の成効地として知らるゝも特殊の産物に乏し。

## ●追分驛（公衆電報取扱驛）

當驛は勇拂郡安平村字追分にある一等驛にして夕張支線の分岐點にして夕張行きの旅客は此驛にて乘換ふるものとす▲骸炭製造所は其規模壯大にして實に我國に於て一二を爭ふ一大製造所にして一日の製出高約百噸以上に達すると云ふ以て其擴大なるを知るべし▲旅館は小野寺、新保等最も信用あり。

## 三川驛（公衆電報取扱驛）

當驛は石狩國夕張郡由仁村字三川にあり此附近は農業地にして熊本開墾地、岡本農場等其最たるものなり、三川村は三河の人此地に移住し開拓に從事せるを以て此名あり、現今の戸數七十餘戸を有せり▲温泉　停車場より北方に平坦の道路あり行くこと二里半にして温泉所在地に達すべし、泉質は無色透明にして少しく鹽味を帶び胃病、便秘質斯に特効あり。

## 由仁驛（公衆電報取扱驛）

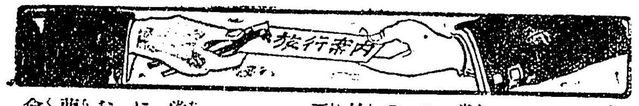
本驛は夕張郡由仁村にありて沿道中有望なる農業地なり、古川農場、渡邊農場等を以て其重もなるものとす本村の戸數三百七十餘戸を有する有數の農業地なりとす▲物産としては松茸を産出す。

## 栗山驛

當驛は夕張郡角田村にありて沿道中第一の富有の地にして戸數四百六十餘戸を有する農業の盛んなる土地なり、福井農場、泉、伊藤、山田、湯地、高木の諸農場を以て其大なるものとす、此他札幌製麻會社の製線場等ありて來往の人織るが如く此附近稀に見るの繁榮を極む。▲森本儀平氏の經營に係る森本鐵工場は新式農具の製作に從事しつゝあり。▲旅館　丸泉旅館、丸ホ旅館あり。

## 清眞布驛

當驛は石狩國空知郡栗澤村にありて幌向原野東方一帶の農産物集散地にして戸數三百廿餘戸を有し西方に石狩の大原野を控へ、大農場としては松平、金子、三浦、鈴木の四農場を以て其重なるものとす、尚製麻會社の製線所も此地にあり。




## 志文驛（公衆電報取扱驛）

當驛は空知郡岩見澤村字志文にあり市街の戸數僅に百餘戸に過ぎざるも、土地廣漠にして又た農家の如き殆んど千戸に超ゆ、故に幌向上流の炭坑開始の曉にも至らば志文は蓋し其面目を一新するに至らむ。

## 岩見澤驛（公衆電報取扱驛）

當驛は空知郡岩見澤村にありて空知支廳の所在地にして室蘭、札幌間に於ける唯一の大驛たるのみならず、幌内線幾春別線、歌志内線、上川線、室蘭線、手宮線等の各線の分岐乘換驛にして蕃炭礦會社附屬の鐵工所等何れも此地にあり、停車場構




## 營業品目

製靴用、底革、甲革類、製靴及製甲類、馬具、椅子、製本用革類、
夏用（白茶ズック甲）ズック底靴
冬用（茶褐黑羅紗甲）防寒靴、
其他製靴、馬具用附屬品及諸道具類

東京市淺草區聖天町六十四番地
**森本新左衛門**
電話　下谷　千三百九十五番
振替貯金口座第一四五八一番

内の規模壯大なる設備の完全せる他驛に其比を見す▲市街の概況　札幌縣の時鳥取山口外五縣の士族二百七十餘戸を募移して開きたる所にして、現今の戸數七千八百餘人口二萬餘を有する都市にして舊市街新市街に區分し、停車場通り夕張通りを以て最も繁華を極むる市街にして重なる商賈軒を列ねて相櫛比す、蹇きに舊炭礦會社の本社を此地に置くや當地の進歩發達を促せしもの大ひに與りて力あり今や商勢の上に於て多少の不振を招致せしものゝ如しと雖も附近農業の發達するに伴ひ活氣を回復するの時あるべし▲官衙並に重もなる商店　官衙として空知支廳、郵便電信局、警察署登記所、稅務所、郡農會、町役場、御料局出張所、貯蓄銀行支店、北海道銀行支店、共成株式會社支店、今井合名會社支店、酒造會社、魚菜會社等あり▲幌内、幾春別の兩炭山　岩見澤より支線八哩半にして幌内炭山に達す此炭山は開拓使の開坑に係り後ち舊炭礦會社に拂下となりたるものにして一ヶ年の產額二十萬噸餘に達す、幾春別炭山は支線十一哩餘の所にあり其產額は粗ぼ幌内炭山に同じ▲岩見澤温泉　停車場を距る約一里の東方の地にあり、冷礦泉にして泉質　白濁色を呈し鹹味を帶ぶ、旅館には玉泉館あり、人車片道五十錢にして宿泊料は六十錢なり▲旅館并料理店　旅亭としては紅葉亭を以て第一とす旅館は田村、山田、山文、上田角大、曲大、等最も信用あり。

## 手宮線（岩見澤手宮間）

### ●幌向驛（公乘電報取扱驛）

當驛は空知郡岩見澤村にあり土地豐饒沃野多く、農業最も盛んにして且つ幌向原野北部貨物の集散地たり、幌向本村は停車場を距る二里の地にあり、農場としては北越殖民會社廣島村水田等を以て其重もなるものとす、名物としては煉瓦餅あり其風味頗る美停車場にて販賣せり。

### ●厚別驛

當驛は札幌郡白石村字厚別にあり信濃人の開拓したる所にして夙に水田開け米質佳良にして其名最も高し、物產としては米、大小豆之に亞ぐに木炭最も多く年々各地へ輸出さる。

### ●白石驛

當驛は札幌郡白石村字白石にあり、明治四年薩藩士白石片倉氏其家臣を率ひて移住開拓せしを以て村名を白石村と稱す、附近の土地肥沃農業に適し本道屈指の米產地たり。





## ●江別驛

當驛は石狩國札幌郡江別村にあり石狩迄は水路二十四浬樺戸月形迄は水路二十六浬を距つ水陸の交通最も至便の地にして岩見澤札幌の中間に位する貨物集散地たり、戸數一千六百餘人口八千三百餘を有する小都にして、東部に千歲川あり石狩の巨流と合す、又石狩及び樺戸月形へは定期航海の便あり、以て石狩川沿岸各地貨物の集散地として知らる、名物としては江別饅頭あり味ひ最も佳なり。

## ●野幌驛（公乘電報取扱驛）

當驛は札幌郡江別村字野幌にあり明治十八年廣島縣外四縣より募りたる屯田兵の移住開拓したる地にして地味肥沃最も農耕に適せり、工業としては久保、館脇の二煉瓦工場ありて各々盛に製造しつゝあり、

## 札幌驛（公衆電報取扱驛）

●地理　抑も札幌の地たる人口六萬二千餘を有する本道の首府にして、其位置は石狩原野の南西に位し東經百四十一度二十分、北緯四十三度三分の位置に介在し、其西部に方り藻岩手稲一帶の連山に圍繞せらるるの外四五アイヌの茅倉點在し、沃野一望際涯なき所の大原野にして札幌なる名稱は蒲土人語を其儘に援用したるものなり、蓋し舊土人語の所謂サッポロとは乾燥したる廣き大ひなる原野と云へる意義なりと云ふ、而るに今や人口七萬を有せる本道の大都府となる文運の進歩亦恐るべきなり。

●沿革　安政二年函館奉行堀織部正箕輪より札幌の地を經て千歳に通ずる道路を開鑿し東西海岸の往來に便せり、同四年浪士志村鐵一家族を率ひて豐平川の東岸に住し渡守を業るに農を以てす、之を同八年黒田長官の赴任するや全力を移民の招致に注ぎ種々の方法を以て移民奬勵に意を傾注せしを以て、益々移住者を得殷賑年と共に加り、開拓使廳の廢せられ札幌縣を設かれたるも同十九年北海道廳を設置せらるゝに至る迄星霜茫々に三十有餘年の間、一度も其政令發展地たるの實を失はざりし結果は遂年其人口の增加を呈し、時に或は盛衰の事實なきにあらずと雖も自治の基礎漸く鞏固にして莫に今日の盛況を見るに至れり。

札幌は斯の如き歴史に因て進み、斯の如き事情に據て發達し、今や其總面積千五百廿四町歩にして戸數一萬千二百九十五、人口七萬七十五なりしに四十三年三月廳令を以て隣村合併の議行はれ新に札幌村字苗穂村及豐平村、白石村、澄井村を札幌區へ併合することとなり、遂に區の面積は劇增して二千六百九十四町歩となり戸數約一萬二千九百五十二、人口七萬八千八百八十七を算するに至れ





我同胞の札幌に移住したる始めとす、慶應二年薩東大友龜太郎農夫を率ひて現時の札幌村に居を卜して開墾に從事せしむ則ち今の札幌元村是なり、明治二年開拓使の設けらるるや判官島義勇氏札幌を選んで政令發布の地となし官衙を今の北一條西一丁目西創成通りに建つ是れ札幌區建設の創始なり、島氏の後を襲ふて岩村通俊氏の就職するに大に意を市街地の區劃に注ぎ、明治四年市街區劃に着手し尚拓地殖民の實を遂行するには先以て交通に利便を興ふるにあり、交通に利便を興ふるには道路を開き橋梁を架するにありとし盛んに土木を興し諸官衙官宅を築造し、更に移住奬勵の爲め十ケ年賦完納の優遇を以て一戸に付き百間を貸與して移民を招致す、爲めに毎年平均數百戸の移住者を得市街の狀況大ひに一變するに至れり、當市街の區劃井然一大都市として他に多く其比を見ざるものは一に岩村氏の賜ものと云ふべきなり、


# 北海唯一の何でも店

貸の枠は五番館

種苗部農具部牧草部は益活動

# 五番館

札幌興農園

●本店札幌停車場通●支店東京銀座尼崎町

分店小樽區北園町

り、而して其町數三百有餘東西の幅員十餘丁、南北之に半し市街の區劃整正恰も碁盤の目の如く、其清洒たる其度測なる全國多くの郡府中其比を見ず。市の中央大通りを界として南北の稱を區分し區内を貫流する創成川を以て其東西を區別す、南は一條より七條に至り北は一條より十五條に至り東は一條より起つて五條に進し、西は一條より二十一丁目に達し道路の幅員最も廣きを大通と稱す、其幅六十間にして火防線と爲せり、而して其人口の如きに至つては著しき增加の現象を呈せり明治三年乃ち開拓使當時に於て僅に三戸十三人に過ぎざりしもの、四十年後の今日に至りては實に戸數一萬三千餘戸、人口八萬餘の多きに達せり、當區の發達進歩が駿々として如何に速かなりしかは由之其事實を曉知するを得べきなり。

官衙、北海道廳は北三條西三丁目にあり、御料局札幌支廳は北一條西十二丁目にあり、札幌郵便電信局、電話交換局は各大通西二丁目にあり其三丁目には札幌支廳札幌警察署あり、札幌礦山監督署は北六條西五丁目にあり、札幌一等測候所は區の西北端にあり、札幌區役所は北三條東一丁目にあり、札幌地方裁判所同區裁判所は北三條西三丁目にあり、札幌聯隊區司令部は大通西八丁目にあり北同七丁目には稅務監督署あり、札幌憲兵分署は北一條東一丁目にあり。

學校　東北農科大學校は北十條にあり、北海道師範學校は南一條西十一丁目にあり、札幌中學校は北十條西四丁目にあり、札幌高等女學校は北二條西十二丁目にあり、其他高等小學校二尋常小學校四私立學校三等あり。

神社　札幌神社は全道の鎮守にして札幌郡圓山の麓にあり、大國魂大命貴少彦名命の三神を祭る官幣大社たり、祭日は毎年六月十五六の兩日なり、三吉神社は南一條西八丁目に鎮守す大日貴命を祀

# 札幌實業案內

次第不同

合資會社 栗山組

札幌區北四條西三丁目一番地（札幌停車場前）

札幌支店

札幌電話一〇一〇番
電略（サ〇）又（八〇）

株式會社 拓殖貯金銀行

札幌區大通西四丁目

電話 一一四番
八六二番

振替口座 東京壹九九四五番

函館區船場町
北海道拓殖銀行支店內
▲函館支店

小樽區稻穗町
▲小樽支店

淺草區松山町江差町
▲江差支店

旭川町二條通八丁目
北海道拓殖銀行支店內
▲旭川支店

空知郡岩見澤町
▲岩見澤支店

後志國岩內町御供內町
▲岩內支店

製粉
菓子種類製造販賣
錦木製粉所
札幌區北二條東三丁目一番地
電話八百十六番

札幌運送組
北海道廳運送物（番號百三十二番）明治五年八月十九日
運送株式會社
日本郵船株式會社運送物取扱
札幌區北二條西三丁目一番地停車場物置（電話十三番）
上田回漕店
電話切符振出



各種帽子類及
附屬品一式
各學校制帽
製造販賣
上
札幌區南一條西三丁目電話番號
安倍帽子店

札幌
唯一
商門
專
帽子

營業
種目
洋燈類
硝子器
板硝子
洋食器
イ
札幌區南一條西二丁目
河內商店

札幌區北五條西六丁目三番地

# 札幌材木株式會社

電話（百三十七番）

---

# 札幌旅館

# 山形屋

電話（五百七十六番）（五十二番）

大竹敬助

---

札幌

# 大旅館

札幌大通西四丁目七番地

# 越後屋

電話（千〇五十一番）

---

海陸貨物取扱業

# 大森運送店

岩見澤停車場前

（電話（貳拾四番））

---

和洋

# 御料理 ときわ

札幌停車場構内待合所

電話（二百三十六番）

一等
旅館
本店 田村旅館
岩見澤停車場前
同停車場向ひ
支店 田村待合所

誠勉
實强
北肇
岩見澤停車場眞向ひ
加賀屋旅館
電話三番

る鄉社なり。

●寺院　本願寺別院は（大谷派）市街の西南端山鼻村に在りて大谷公勝師本道の開拓に意を注ぎ、明治三年始めて本堂を假設し、同廿五年に至りて堂宇を建造し輪番役僧を置き全道の末寺を管理總轄せり、本派本願寺別院は南四條西五丁目にあり、明治十一年の創立たり、新善光寺は南六條西一丁目にあり、明治十五年の創立にして堂宇壯嚴の大伽藍たり、中央寺は明治七年の創立にして南六條西二丁目にあり、經王寺（日蓮宗）は明治十三年の創立にして區外豐平村にあり、北海寺（日蓮宗）は南三條西四丁目にあり。

●病院　豐水病院、逸見病院、札幌病院、北辰病院、島田病院、札幌内科病院、吉田眼科病院、葛西病院、荒井病院、回明堂眼科病院、北海眼科病院、正見病院、三田村病院等其他私立醫院數十あり。

●工業　當地は北海三都府の一にして人口多く商況


旅行案内

◎サッポン全道一手卸元◎
札幌で最も安くてよろしき品を卸す店は
◎かつら香油一手卸元◎

大洋物店
札幌北三西三
電話（八三七番）

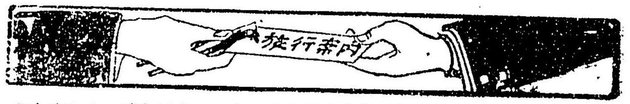
最も盛んなりと雖も、函館小樽の兩地に比して其商業上の關係を異にするを以て、當地は商業地と云はむよりも寧ろ工業地と云ふの優れるに如かざる事情あり、而して其工業に至りては比較的割合に進歩したり、將來に於て當地は工業地として發達せざるべからざるの事情あり、而して其重なるものを列擧せば札幌鐵工場、多年本道の宿題たりし北海道鐵道線に屬する中央工場は遂に札幌苗穂に壯大偉觀の大工場を建設さるゝことゝなり、其敷地總面積は十七萬九千九百七十五坪にして四十三年二月より既に事業の幾部を開始せり、該工場全部完成の曉は約五千の職工は同所に雇傭さるゝを以て其家族を包含して約一萬二三千の人口を茲に增加するの割合なり札幌工業界の爲め實に慶賀すべきことゝす。其他大日本麥酒株式會社の札幌ビール醸造場、帝國製麻株式會社は札幌の二大工場として最も有名なるものなり、札幌ビールの醸造場は明治二十年澁澤榮一氏を社長とし植村澄三郎氏を專務取締役として資本金百萬圓を以て設立され、別に製麥所製瓶所等を特設し東京向島に分工場を設け其原料の如き悉く北海道に於て生産するものを用ひ、其規模頗る宏大にして札幌ビールの名は其品質の精良卓越なると共に全國に嘖々たるに至れり、而して曩に三大麥酒會社の合同行はれ今や大日本麥酒株式會社札幌醸造場として醸造工場の增築を爲し、其造石高を增加せしめ一箇年の醸造高二百萬圓に達せしむる等事業の發展に全力を傾注しつゝあり、帝國製麻株式會社の起因は明治十九年にあり爾來二十有餘年の實驗を經て明治四十年七月日本製麻株式會社と北海道製麻株式會社と合同し今や帝國唯一の大製麻會社となり、本社を東京に支店を大阪、札幌の兩所に置き其資本金の如き六百四十萬圓にして、取締役社長には安田善三郎氏、取締役には大倉喜



内地旅行案内

札幌
名産
麻糸
帝國製麻株式會社
札幌ビール醸造場
大日本麥酒株式會社
札幌
名産
内地
旅行
案内
札幌
名産
内地
旅行
案内

札幌一南條
電話七五二番
電信番号二七一番
宮田商會




八郎、田中源太郎、大橋新太郎、土岐儀、中山尚之助、宇野安太郎、小澤七兵衛、雑賀良三郎、の諸氏相談役には澁澤榮一、安田善次郎の兩氏支配人には宮内二朔、上野榮三郎の二氏何れも其任にあり、其營業の目的は亞麻を移植し大麻と併せて之を其原料に充用し紡績の業を營み本道に於ける工場は札幌北七條東一丁目にありて其他製線場は本道各所に十八箇所を置き、製品工場を大阪、日光、鹿沼、大津の四箇所に置き、其の原料たる亞麻は同社自ら北海道各地に歐洲の種子を輸入栽培しつゝあり、亦た重なる營業の品目はヅック、ダック、リンネル、ホース、漁網、網素、麻布用糸、蚊帳用糸、ジュート糸、罎糸、帆縫糸、各種麻糸、麻織物類にして其年々の産額頗る巨額に達しつゝあり、足一度札幌の地を蹈むや其宏大なる工場と高く天に聳ゆる煙筒より黑煙を吐きつゝあるの壯觀に眼を驚かすべきものあらむ、其他札幌製粉所、札幌工作株式會社、札幌木材株式會社、札幌精米株式會社、札幌酒造合名會社等あり。

●●●●遊覽案内　大通西八丁目の中央に魏然として四圍を睥睨しつゝあるを●●●●●田伯の銅像●●●とす夫れより大通西一丁目の角に壯麗なる二層の洋館あり、庭内一町四方を有し老杉松柏欝々として天を摩す、之を●●●●●

客悉な圓山と稱して京都の圓山に擬せり於是圓山の名起りし所以なりと、博物館は北三條西八丁目にあり木道産の動植物鑛物アイヌ人の製作せる諸種の器具を陳列し、また諸種の花卉を栽植し四季を通じて芳菲を絶たず當地觀光の士は必らず一遊すべき價値あり、定山渓温泉は當地より約七里豐平川の上流にあり、土地幽邃滑客を絶たず、東草園は北八條東一丁目にあり諸種の草花を栽培し四時芳香を放ち又園内の清酒なると風趣に富めるとを以て其名高し。

旅館　山形屋、角イ屋、丸惣旅館、丸信、佐野屋、旭館等あり、角イ屋旅館は新築落成客室其他の設備頗る完備を極む。

## ●苗穂驛

當驛は四十三年四月より開設されたる者にして札幌區域擴張の結果として設けられたるものとす札幌鐵工場所在地として將來頗る有用なる驛とす。

## ●琴似驛（公衆電報取扱驛）

當驛は札幌郡琴似村にあり戸數七百二十を有し明治八年會社より移住せし屯田兵に開拓されたる兵村にして農業地たり、▲輕川温泉へは西方一里十六丁餘圓山温泉へは南方十六丁餘なり。

## ●輕川驛（公衆電報取扱驛）

當驛は札幌郡下手稲村字輕川にありて此地は札幌附近に於ける開拓上に付き最も古き歴史を有する地にして安政二年德川幕府の旗下の移住開拓に從事せるに起因し、爾來年を累ぬるに從ひ各府縣よりの移住者來住したるを以て農業は他の方面に比して發達せり、北海道造林會社の植樹地前田農場



札幌興農園の牧草栽培地何れも有名なるものなり

▲石狩町鮭の漁業地を以て有名なる石狩町は停車場を距る北方四里五丁の所にあり、鮭漁見物の旅客は此驛にて下車し同地に到るを便なりとす、又當驛には客馬車の當設あり石狩町迄四十錢なりとす、而して茲に石狩町を紹介する爲め少しく左に其概況を記述すべし。

## ●石狩町

石狩國石狩郡の西部位し石狩川の吐口に跨り、南は花川戸の殖民地に近接し、東は遠く生振、當別の諸原野に連りて當別村に界し、北は厚田郡望來村に界し、西は直ちに日本海に面し海を隔て、近く小樽港を望み、遙かに積丹半島に對す、地勢は平坦にして開豁眺望亦佳なり、海岸一帶砂濱にして低く砂丘横はる、樹木は矮小なる樹諸所に散生し之魂は至る所に茂繁生長す、石狩川は實に本道第一の大河にして其源は遠く上川郡の





發賣元　内田商店

商標　三菱藥用ブランデー　印

登錄

札幌　南三條西一丁目　源南部源藏

南一條通西二丁目

特約店　古谷辰四郎

石狩岳に發し蜿蜒屈曲九十有餘里市街の東部を貫流して日本海に朝す、此川は鮭漁の盛なると水量の多きと河道の長きとを以て其名夙に著名なり河口の幅凡二百五十間水深二十五尺就中河幅の最も廣き所は市街の東方にありて其幅二百間水深四十尺より五十尺に至る、河水の海に注ぐ所常に海水と相衝突して激浪を起し、河道又屢變化するを以て大船巨船を自由に往來せしむる能はざるを憾みとす。

●沿革　寛文年中能登の漁民松前に渡り後ち石狩に移り土人を使役し漁業を爲し其收獲物を松前に送りて販賣せりと云ふ、元祿元年德川光圀其臣崎山某を遣して快風船に乗し六月當地に至る土人集り爭ふて之を觀る男女殆んど千餘人互ひに交易す、留ること四十餘日にして去る、同七年松前藩家臣山下仲左衛門當地に來り辨天祉を勸請したりと云ふ、寛永三年石狩場所を設け家臣の漁場となし能登の民村山傳兵衛に命じて請負を爲さしむ、而して當時請負人は專らアイヌを使役して漁業を營めるが、故に和人の此地に來りしは只支配人通辭番人等僅々の數に過ぎざりしと云ふ、爾來數百年の變遷を經て明治三年五月開拓使出張所を當地に設け、同十七年石狩外七郡役所の所轄を分ち石狩厚田、濱益三郡の郡役所を置く、同十八年山口縣移民二十餘戸八幡町字高岡に移住す、同二十二年當地にありし郡役所を廢して札幌郡役所に合併す同二十六年以降附近原野の殖民地貸下あり農民の移住と共に市街も又た漸次戸口を增加せり、同三十五年四月二級町村制を實施せられ、產振村を合せて自治團體となる、要するに當町は石狩國中最も早く開けたる所にして其原因は重に石狩川の鮭漁業の盛大なるに據らずんばあらず、隨て市街の消長浮沈も又漁業の豐凶に關する所最も大なりとす、而して最近の調査に依るに當町の戸數一千六百十戸人口八千三百十二人なり。





●市街の概況　市街は石狩川を挾みて東西兩部に分る、其西岸は恰も石狩川と日本海との間に挾まれたる砂嘴の上にありて東西に挾く南北に延長す、其西部にありて直ちに日本海に面する所は辨天町にして鄕祉辨天祉を祭る結構壯麗なり、其次ぎを横町と云ひ石狩尋常小學校、料理店、劇場、貸座敷等あり、中央の通りは親船町にして町役場、郵便電信局、警察分署、商買、旅舍等檐を連ねて鱗次す、本町仲町等は東西の通路にして石造倉庫又少なからず、親船町の北部と共に繁盛の區となす、新町濱町は其北にありて漁家多し、船場町は直に石狩川に沿ひ漁船帆船等輻輳し貨物の揚卸共に便なり、川の東岸には若生町八幡町あり商家漁家相雜住し、其少しく北方字來札には樺太移住アイヌ人の一團數十戸あり皆漁業を以て生業とす、當地の最も繁盛なる時期は例年七月末鮭漁の準備として諸方より人夫入込み來るに始り、九月中旬頃より十月末頃迄は鮭漁業の最盛時期にして諸方より見物に來るもの又た少なからず、其漁場は河海共に直に市街に接する所に多くあるを以て早朝より夕に至る迄漁夫等の款乃咿軋の聲勇ましく頗る雜閙をなし旅舍料理店の如き亦大に繁昌せりと云ふ。

●漁業　當地に於ける鮭漁は古昔より最も盛大にして其收獲高の如き本道第一に位し、鱈漁之に次ぐと雖も其收獲は遙に下れり、雜漁は最も寡少なり殊に海岸一帶砂濱なるを以て鰊漁は絕無と云ふも不可なし、鮭、鱒は河海共に其漁場ありと雖も河を最も多しとす、而して明治十五年の漁期に於て二萬四千六百石餘此價格十五萬九千餘圓を以て豐漁とし爾後年々減收の傾向あり。

●商工業　商業區域は亦市街全戸及附近農業部落花川村の半部當別村の西南部厚田郡豐來村等とす商

品の取引は府縣より直接の取引を爲すは僅少にして其多くは小樽札幌の商人と取引す、各種魚類の生貢は專ら小樽、札幌、旭川等にして鹽魚は一たび之を小樽に積出し同地商人の手を經て府縣各地へ輸出せらる、工業としては繩詰製造所清酒醬油の釀造所の一二あるのみにして其他には特に記すべきものなし。

●社寺　郷社辨天社は辨天町にあり、眞宗大谷派能量寺は親船町にあり、淨土宗法性寺は横町にあり日蓮宗金龍寺は新町にあり、曹洞宗曹源寺は辨天町にあり。

## ●錢函驛（公衆電報取扱驛）

當驛は後志國小樽郡朝里村字錢函にあり寶蘭を發車し、錦多峰驛を通過してより窓前眼に映するものは山嶽にあらずむば、漠々たる原野たりしに此驛に至りて又海波の渺々たるを見る當驛附近は鰊の漁業地として最も有名なる地なり、毎年四五月鰊の漁獲時期に至りて當地附近一帶海濱の壯觀は蓋し都人士の夢想する能はざる所なり、▲神威古潭　錢函驛を發し張碓驛に到るの中間に絶壁數十仞峭然空を摩するの巨巖屹立して將に崩落せんと疑る之れ神威古潭の奇勝たり神威古潭とは土語の所謂神の所の意義なりと云ふ▲海水浴　錢函の東部沿岸字濱中附近は海深からず最も海水浴に適するを以て七八九の三ヶ月間遠近より來遊するもの頗る多し、旅館其他の設備も粗ぼ完備し居れり。

## ●張碓驛

當驛は朝里村字張碓にありて乘客を取扱はずして貨車のみの停車場とす。





## ●朝里驛（公衆電報取扱驛）

當驛は小樽郡朝里村にあり全村漁業を以て生計をなし其戸數八十六に過ぎず▲朝里溫泉　停車場の南十五丁の地にあり道路平坦にして最も便なり旅館には松旭館あり宿料低廉なりとす。

## ●小樽驛

當驛に付ての記事は別項中央小樽驛の項に於て詳述しあり。

## ●手宮驛（公衆電報取扱驛）

當驛は小樽區手宮町にあり舊炭礦鐵道の終點にして棧橋其他の設備粗ぼ完備しあるを以て百貨輻輳樞要の驛たり、彼の有名なる規模の壯大なる手宮倶楽部、服部時計、朝里驛、小樽驛、手宮驛、峰延驛、美唄驛

工場は其構内にあり。

## 空知線（二十五哩三鎖）

## ●峰延驛（公衆電報取扱驛）

當驛は石狩國空知郡沼貝村字峯延にあり、此地は去明治二十四年の頃より東北七縣より移住せる屯田砲兵隊の所在地たり、樺太巢治監の所在地たる月形迄は四里を距つ。

## ●美唄驛

當驛は空知郡沼貝村にありて土地廣く地質豐沃農業の進歩したる地にして屯田騎兵隊の所在地たり附近大農場多く其重もなるは中村農場菱農場京極農場等とす。

## ●奈井江驛（公衆電報元取扱驛）

當驛は空知郡奈井江村にありて空知沿線中第一に位する農業發達の地にして其産額亦從つて多し、市街は戸數二百餘を有し農村として有名なる土地なり、田中平八氏の炭山、高島嘉右衛門氏の大農場等あり。

## ●砂川驛

當驛は空知郡奈井江村字砂川にあり、市街は戸數四百二十を有し岩見澤驛に亞ぐの一等驛にして、其線路は一は岩見驛に向ひ、一は滝川に到り、一は歌志内炭山に達する分岐點にして乗客貨物の集散頗る頻繁なる驛とす、而して地は東方山を負ひ西部石狩の巨流に對し地味豐饒にして農業亦盛んなり▲工業としては雨龍、空知の両川を利用し夙に三井物産會社は此地に一大木工場を設け枕木の製作に從事しつゝあり其産額頗る多し▲砂金地は當驛を距る三里十八丁餘乃ち徳富川の支流にありて之を新十津川の砂金地と云ひ其市況頗る繁榮を極む▲空知炭山は砂川より支線九哩の地にあり炭鑛會社の所屬にして一ヶ年の産炭高二十餘萬噸とす。▲旅館丸金印石田、曲中印小林等市内便利の地にあり。

## 幌内支線（八哩三十五鎖）

## ●幌内太驛

當驛は空知郡幌内太村字幌内太にあり、右方幌内左方幾春別に入るの分岐點たり、青備炭鑛は何れも當地に搬出しつゝあり、又北海道の繁榮に係る所の有名なる模範的楽園は當驛を西北に距る約十丁幾春別の對岸なる市來知村にあり、此地たる什

●脚氣に御困の方に告ぐ

脚氣に罹り醫者の藥や又種々の藥を用ゐて効なく御困の人は本劑を一廻分用ふれば全治疑なし

合尚術心の患なし輕症一劑で根切す

定價 三日分 三十錢 一劑分 六十錢

東京市神田區猿樂町廿一番地

本舗 鈴木吟亮藥房

○販賣店北海道一圓有名藥舗にて取次販賣す


て空知分廠の所在地たりしも今は廢止となりしを以て大いに實績の狀況なり、然れども地質頗る肥なるを以て蔬菜類の如き沿線中第一と稱せらる。

## ●幌内驛（公衆電報取扱驛）

當驛は炭鑛會社四大炭山の一にして幌内支線の終點なり、戸數千四百餘、人口一萬千二百市街頗る繁榮にして諸種の商家に客を迎へて優比し其繁盛の狀況は夕張に匹敵し、且幌内炭鑛の地場たるや東西は連峰連峰し澤次所接しつゝ南方に於て接合す、而して炭山は其山勢の廻る所にあり、滝山の澤本澤の、諸渓流は東南より流下し其面積實に八十七萬二千百餘坪なり、此炭山は明治四年開拓使の開坑に係り同二十一年炭鑛行列の倒立と共に挫折を受けて今日に至れり、一ヶ年の採炭高約二十萬噸内外なりと云ふ。

## 幾春別支線（四哩三十九鎖）

### 幾春別驛（公衆電報取扱驛）

當驛は幌内太より分岐したる四哩三十九鎖の支線にして幾春別炭山の所在地たり、該炭鑛は明治十三年の發見に係り同十八年六月農商務省が始めて開抗に着手し、同廿二年炭鑛會社に於て拂下を受け爾來採炭に從事しつゝあるものなり其一ヶ年の採炭十餘萬噸なりと云ふ、而して炭山を距る數丁にして市街地あり戸數百三十餘また前世紀の遺物なりと稱せるアンモナイノートの化石は幾春別の上流一里餘の所に現存せり。

## 歌志内支線（八哩七十七鎖）

### 神威驛（公衆電報取扱驛）

當驛は空知郡奈井江村にあり此地は四圍山岳を以て繞され炭鑛會社の歌志内炭山其他四ヶ所の炭山ありて何れも盛んに採掘に從事しつゝあり。

### 歌志内驛

當驛は空知郡歌志内村にありて四圍樹林を以て圍繞せられ市街の戸數七百五十人口七千を有し、炭礦會社の空知炭山所在地として有名なる土地なり、東方大字上歌志内にあるを上歌志内炭山と稱し、下歌志内にあるを下歌志内炭山と稱し、此の二炭山を空知炭鑛と總稱し其礦區坪數六百五十七萬千百八十九坪を有し一ヶ年の採炭高二十餘萬噸なりとす。

## 夕張支線（二十七哩十二鎖）

### 川端驛（公衆電報取扱驛）

當驛は室蘭沿線の追分驛より分岐し有名なる夕張炭山に到るの道程にして其延長二十七哩十二鎖なりとす。



### 瀧の上驛

當驛は夕張郡登川村にあり彼の有名なる瀧見の瀧は停車場を西方に距る約二丁にして達す、千丈の瀑布蔿然として雷の吼るが如く、巖下の摘泉唧々として秋雨の屋檐に鳴るが如く、其風爽清冷言ふべからず、亦た秋候楓樹の紅葉に至りては詩人騷客の嘆賞措かざる所なり。

### 紅葉山驛（公衆電報取扱驛）

本驛は紅葉の勝景を以て有名なる土地なり故に採て以て驛名に附したるなり、夕張追分間に於て停車場の廣濶なる本驛を以て第一位とす。

### 沼の澤驛

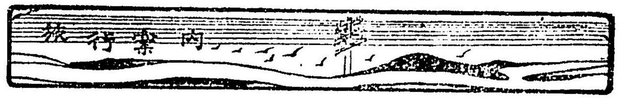
當驛は貨車のみの停車場にして當分乘客を扱はず此地は夕張第二鑛の所在地たるを以て近き將來に於て市街の發達殷賑を見るに至るべし。

### 清水澤驛（公衆電報取扱驛）

當驛は夕張郡登川村にあり有名なる砂金地は夕張川の支流四里の所にあり。

### 鹿の谷驛

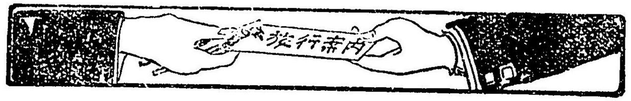
當驛は石狩石炭株式會社炭山の搬出地にして多くの人夫入込居るを以て人氣宜し。



## ●夕張驛

本驛は夕張郡登川村にあり元本村は由仁村の所屬なりしも三十年七月分割して登川村となりしものにして有名なる炭礦會社の四大炭山（夕張、空知、幌内、幾寒別の四炭山を云ふ）の一なる夕張炭山の所在地にして炭礦會社の所屬坑夫六千人内外の常に入込居るを以て商況頗る繁盛にして現時の戸數五千六戸、人口二萬六千五百二十五人を有し、舊炭礦鐵道沿線中唯一の繁榮地にして從つて來往の旅客多し、▲夕張炭礦は明治九年開拓使雇米人ライマン氏の報告中に已に夕張地方に炭層の存在を明言したことありしも種々支障ありて探險を試むるものなかりしも、同二十三年に至り坂市太郎氏始めて之を發見せしより漸く夕張炭山の名世上に傳へらるゝに至れり、同二十二年村田堤なる人其一部試掘の許可を得たりしに炭礦會社の創立に方りて之を讓受け直ちに之が開坑に染手し、同二十五年其營業を開始し逐年增々旺盛に進みつゝあり、其炭質の如きも良好にして且つ頗る炭層に富み厚五寸乃至三尺の夾雜物を合せて二丈五尺に至るものあり、其採炭額一ヶ年百萬噸以上の多額に達し我邦屈指の炭山なりとす、而して諸種の設備に至つても機關に空氣力、壓搾器、電氣力を用ひ採炭規模の壯大にして完備せるの點に至りては實に全國稀有に屬す、宜なり其四大炭山の採炭額は全道總額の九割二分の多きを占むるに至れり。▲會社　は石狩石炭株式會社、炭礦汽船株式會社、大夕張炭山株式會社、北海道アセチリン株式會社等あり▲重もなる商店　丸三印兩角呉服店、丸大印越後屋呉服店、遠藤雜貨店、に印工藤商店、中川醸造場、多田、笠島各藥舗、改進堂時斗舗、野澤時計店等とす▲料理店と旅館　旗亭の有名なるものは花月、山福の二樓にして桃紅魏紫





鐵道　汽船　貨物　取扱

◎吉田運送店

石狩國妹脊牛停車場構内（電略（ヨシ）又ハ（ヨ））

の艶麗を競あり、旅館は木幡、に印工藤、角ヨ印坂井の三大旅館あり最親切を旨として旅客を取扱ふ

## 留萌線

### ●深川驛（留萌線分岐驛）

當驛は石狩原頭たる雨龍郡深川村にあり、深川村は雨龍郡に於ける大農村にして亦留萌鐵道線の分岐點として將來發展の大驛たり當驛の起源たるや明治卅年七月旭川に至る鐵道の開通と同時に開始せらる、由來本驛の四圍は農牧に適地たる沃土に包圍せらるゝも石狩河畔僅に土人の三々五々散居するのみ空しく農稷の沃野熊狸に委しあるの時明治二十二年三條侯、蜂須賀侯、菊亭侯等組合を組織し、雨龍原野に地を卜し組合華族農場を起し一億五千萬坪の貸下を受け茲に大農組織の模範を示さんを期し、農法は總て米國式に則り全然大農的を以て經營し諸般の施設見るべきものあるに際し、會〻三條侯の物故せらるゝに逢ひ豫期の計畫を遂行するを得ず、偶〻政府雨龍郡に屯田兵を移するの議決せるを以て、同二十六年組合農場を解散するに至ると同時に菊亭、蜂須賀の兩侯及大谷伯、戸田子等は更に雨龍郡の北端に北龍村を設置し、他の移民を合して該地に深川村の村名を附し小字一己、妹脊牛、納内、秩父別、ポロカイを併合して一村を組織せり、一巳村、納内村、秩父別村に屯田兵制を敷き明治廿七、八年の兩年を以て屯田兵を移住せしむ、而して菊亭農場の分割地としてメム、妹脊牛、一巳の一部分に一般移民を招致して開墾を奬勵せしめたるの結果屯田兵の移住及一般移民頓に增加し遂に今日の深川市街地を建設し三十五年四月二級町村制を施かるゝに至れり。之れより先に明治卅年空知太より旭川に通ずる鐵道完成し尙亞で同四十三年九月留萌線の開通に依て、當驛は其分岐驛となり交通の便尙一層を加へ圍村の發達は日進月歩の勢を以て發展し、現下深川村の戸數一千五百餘戸、人口七千二百餘人を算



鐵道　汽船　貨物　取扱

◎吉田運送店

石狩國妹脊牛停車場構内（電略（ヨシ）又ハ（ヨ））

するの盛況を呈しつゝあり。

●官公衙　村役場、警察分署、郵便局（電話架設）等あり。

●金融機關　絲屋銀行旭川支店深川出張所あり金融界に圓滿なる利便を與へつゝあり。

●深川土工組合　這回土工組合法に基き土工組合を組織し三十五萬圓の費用を支出し灌漑溝を造成するの目的を以て三箇年繼續事業とし四十一年三月に起工し晩くも本年中に全部完成の見込なり、北完成の曉は深川村に屬する約四千町歩の畑地を全部水田と爲すの計畫なれば、其成功後に增加すべき農產額は實に寡しとせず、今試に其增加差額を示さむに現今の畑地四千町歩より收穫する生產價格一箇年約三十五萬餘圓に過ぎず、然るに水田成功後に於ける生產價格は優に八十八萬圓を收穫するの見込なれば其一箇年の增穫五十三萬圓となるべし、而して目下畑地に對する耕耘作付反別は

銀行一般の業務精々御便利御取扱可申候

絲屋銀行旭川支店

深川出張所

電話貳番

一戸分に對し約十五町歩平均なるも水田に於ては一戸分に付き約三町歩内外と爲さゞるべからず、去れば一方に於ては生産價格を增加せしめ一方に於ては水田開發に伴ひ移住民の招徠を促進すべきは勢の將に然らしむる處なりとす、故に水田奬勵の結果は本道の拓殖事業を進め農產增加の趨勢を促すべき東導者たるに至らむ。

●工業　深川木工所は藤田源太郎氏の經營に係るものにして新式の機械數臺を据付け頗る盛大に挽鞠事業に從事しつゝあり、其他別に著しき工業未だ發達せず。

●病院　衛生的設備は他地方に比し頗る發達し深川病院（院長堀江賴信氏）姉齒病院（院長姉齒正雄）外に一ヶ所の醫院あり、深川病院、姉齒病院何れも院内の設備十全し院長亦各老練の聞え高き名刀圭家なりとす。

●運送店　谷口運送店は完全なる倉庫の設備あるのみならず取扱頗る迅速にして最も信用ある運送店たり。店主は、谷口宗太郎氏、其他早川運送店、深川共同運送店等之れ亦何れも敏活丁寧にして信用あり、

●旅館、料理店　停車場前便利最も宜き位地に丸太印、北越旅館あり家屋は最近の新築にして客室清潔諸設備の整頓せる而かも宿料の低廉なる點に至ては決して他に其比を見ざる深川第一の高等旅館とす


## 營業品目

吳服太物
洋反物類
萬仕立物
和洋小間物
筆墨紙類

深川本町
杉澤吳服店
電話長三六番






## ●筑紫驛

當驛は石狩國雨龍郡秩父別村にあり、本村は東北に小丘を負ひ一已村の連峯を望み雨龍川を隔てゝ北龍村との境界を爲す、東方大平野を距てゝ深川村に相接し廣袤五里道路整正交通最も便なり、地味概ね豐饒にして大農村たるの實質を備ふ、固と本村は深川村に屬したりしも廿七、八年の兩年に移住せる屯田兵第一大隊第一、第二兩中隊より成る兵村なりしが、明治卅四年十一月深川村より行政區を分離し戸長役場を新設し、同卅九年四月一日二級村制を施行さる、最近調査に依るに戸數七百八十三、人口四千二百四十八人なり。

●農業　現今水田五百七十八町歩、畑地千五百八十九町歩（四十二年末調査）あり、今後尙灌漑溝を擴張するの計畫中なりとの事にして其成るの日は實に二千町歩餘の水田を開發し得べく、鐵道の全通に伴ひ今後著しき人口增加及生產物發展の見るべきものあるを信ず、主なる農產物は米、麥、大小豆にして一箇年の產額米七千八百四十五石、稞麥三千八百十六石、大豆三百六十四石、小豆千六百八十石此總價格十四萬九百四十一圓なりと云ふ。

●交通　東南は一已村に二里十六町、南は深川村字

妹背牛へ一里卅二町、西北は雨龍川を距てゝ北龍村に一里廿二町なり。

本驛の停車場敷地は秩父別村後藤藤吉、宮武作太、村重磯太郎、淺井信三郎、秋井永之助、長江銀次郎等諸氏の寄付に係れり。

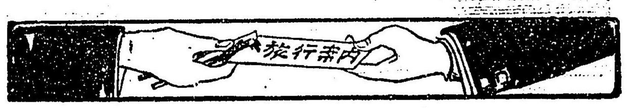
●●醫院　成田醫院あり

●旅館　丸サ印青木、山さ印佐々木等ありて取扱丁寧にして宿料大勉强なりと云ふ。

●●運送店　信用ありて取扱の確實なるは藤田運送店とす、

## ●沼田驛

當驛は石狩國雨龍郡北龍村にありて、北龍市街地より東北一里を離る、明治二十六年培本合資會社の圖體人口約二百七十人戸數五十戸始めて此地に移住したるに依て開村せり、其翌二十七年に至り大谷光瑩、沼田喜三郎、渡邊八右衛門、許士泰、共成株式會社等其大地積の貸付を受け、戸數約三百五十戸の小作人を同時に移住せしめ、且亦帝室林野御料局は本村惠岱別、美華牛、新太志別の三ヶ處に小作を置き、同三十四年に至りて北海道炭礦汽船株式會社に於て大地積の貸付を受け造林製材の傍ら小作人約五十餘戸を移住せしめたり、斯の如くにして此地附近は長足の發展を爲し以て今日の好農業地を作出せるなり、而して同三十二年より同四十年に至る八ヶ年間は毎年約平均五十餘戸人口二百五十の移住者招徠の實ありて益々發展し來りしも、四十年以降は別に見るべき移住者の增減なしと雖も年々驛地の增加するに伴ひ生產物の數量は增加せり、最近の調査に依れる農產物の主要なるものは米三千三百石、燕麥八千石、大豆三千五百六十二石、小豆三千百五十石、蕎麥二千六百石、大麥、小麥、稞麥、蕎麥、粟、黍、




玉蜀黍、馬鈴薯等何れも相當の收穫あり、其他製材、煉瓦等の製作物少しとせず、現時の水田約百八十三町歩、畑五千七百八十二町歩餘、牧場地八百六十六町歩、樹林地四千四百三十五町歩餘、宅地二十一町歩餘あり、尙未開地にして貸付中のもの全部成墾に至らば一層の發展を促すに至るべきや必せり。

●礦業　本村西北の山脈及河川は概ね石炭、砂金、石油、等の礦產物に富み四十有餘の礦區に達せしと雖も從來交通不便の關係に依て未だ斯業に手を染むるもの寡かりしも、鐵道開通の今後に於ては本村唯一の特產物として世の事業家の垂涎する一大財源となるべきものと信じて疑はず、其他沼田喜三郎氏の沼田木工處あり、

交通●　本村東西南の三方面は一己村、秩父別村、雨龍村に接し、北は天嶺國境を以て界す、而して一己村は沼田停車場を距る二里にして車馬の便あり人馬の交通至便なりとす、秩父別村は鐵道に依るを便とす、雨龍村は當驛を距る五里なりと雖も亦車馬の便あり。

●●●●●本驛將來の發展　沼田停車場の敷地一萬六千餘坪の地は沼田喜三郎氏の寄付に係るものにして依て其姓を采つて驛名を附せりと云ふ、本驛は附近農業の發達せる地を控へ物資集散の中樞たるべく、從つて相當施設の完備を期すべきの要あり、有志者間に於て專ら計畫中なれば異日之等機關の現實するに至らば單に停車場處在地の繁榮に止らず愈本村は運輸交通兼備の所謂村利民福の途を得るに至らむ。

運送店●　丸鮮印吉田運送店、前田運送店は取扱敏活且信用深き運送店とす。

旅館●　停車場前には丸松印松岡旅館ありて最も信用と取扱親切を以て名あり

## ●惠比須驛

本驛は石狩國雨龍郡字惠比須にありて沼田市街地へは二里を距つ此地は夙に木材の產地を以て名あり、鐵道の便開けたるを利し各地に一の木材市場を創設し盛んに各地方に向て輸出を謀り、材採後の土地に對しては弘く移民を招來し開墾に從事せしめ以て此地方の開發を期するは頗る焦眉の急なりとし目下地方有志者專意計畫中なれば近き將來に於て一生面を發揮するものと信ず。

●旅館、旅館は停車場前に北龍市街地の越中屋の支店あり客室清潔取扱丁寧なり、旅客待合處は停車場前便利の所に黑瀨待合處あり、

## ●峠下驛

當驛は石狩天望の國境にして現時特記すべき事項なし、

## ●幌糠驛

當驛は天望國留萌郡留萌町に屬する御料農場地にして地味頗る豐饒加ふるに礦產物に富み將來最も有望なる發展地なり、旅館は山六印上茶旅館あり

## ●藤山驛

當驛は天望國留萌町大字小平蘂原野にあり、小樽の藤山要吉氏經營に係る藤山農場處在地にして現今は市街豫定地もなく三々五々農家の散在するのみ、他日附近農業の開發に依て漸次人口の增加するに至るべきものとす。

增留留毛
線萌萌
各沿
驛

# 實業案內

次第不同

米穀荒物煙草元卸販
穀物草賣所ニ製造賣

天鹽國增毛港

加納宇平商店

(電話拾六番ノ壹號)
電略(一ウ)

酒類醤油味噌釀造元

天鹽國增毛港

青木商店

電話四二番
電略(アヲキ)又ハ(ア)

米穀、荒物、雜貨商

天鹽國增毛港

青木支店

△營業課目

○醫藥用工業用藥品
○繪具染料諸名家賣藥化粧品
○和洋小間物、文房具一式
○各種書籍雜誌卸小賣
○復方ビリン(ウミトール)大黑目藥 北海道代理店

天鹽國增毛港永壽町

井狩彌太郎

△醫家諸方箋調劑所

藥劑師 井狩藥局

●●理化學應用分析鑑定ノ依頼ニ應ズ

增毛

北

伏見旅館

(天鹽國增毛港波止場ノ上通リ)

新式時計

附屬品
貴金屬商

各國時計各種嶄新ノ流行形附屬品貴金屬類各種取揃最モ品質ヲ精選シ低價ヲ以テ發賣致候間倍舊ノ御高需奉希候

尚時計其他ノ修理ハ期日ヲ迅速ニシ且ツ廉價ヲ旨トシ精々勉强御愛顧ニ報ヒ可申候

天鹽國增毛港永壽町
久保田時計舗

歐米新式
寫眞

期日適確
撮影鮮明

天鹽國增毛港暑寒町
石川寫眞館
電略(イシ)又ハ(イ)

四

◎委托測量
土地、鑛山、漁場、
土木、建築、測量、
設計、
等弘く需に應ず

留萌舊市街地
中村須磨工業事務所

民刑訴訟
及
非訟事件

天鹽國留萌港
明法學士
望月法律事務所

五

寫眞（歐米最新式）
寫眞石版
コロタイプ寫眞應需
天鹽國留萌港
丸谷寫眞館

吳服太物
和洋小間物商
天鹽國留萌港
高橋文平商店

荒物雜貨商
官製煙草販賣
天鹽國留萌郡幌糠停車場前
寺西末吉商店

農産物賣買
荒物雜貨商
鐵道貨物取扱店
天鹽國留萌郡幌糠停車場前
荒木萬治郎



鐵道船舶貨物運送
全國海陸連絡荷物取扱所
北海道天鹽國留萌港
合資會社留萌運送組本店
電略（六八）又八（〇六）

留萌の親玉
和洋小間物
諸雜誌販賣
國定教科書
△△質屋營業▽▽
天鹽國留萌港
阿部守雄商店
電略（八）又八（八〇）

和洋

料理

清泉館

苗港





雜穀賣買
荒物雜貨商
官製煙草販賣

天鹽國留萌郡留萌町御料
塚本民藏商店

客室清潔
御旅館
取扱親切

天鹽國留萌郡幌糠停車場前
上茶清吉

荒物雜貨商

天鹽國留萌郡御料
石川由太郎商店

米穀荒物
海陸物産商

天鹽國增毛港稻荷町
本間仁助商店

鐵道貨物運送店

石狩國雨龍郡恵比壽停車場前
藤井正助

挽材販賣
幷ニ
賃挽

石狩雨龍郡北龍村沼田驛
沼田木工場

鐵道貨物運送業

石狩雨龍郡留萌線沼田驛
前田運送店

米雜穀荒物
諸雜貨小間物
和洋酒罐詰類

石狩雨龍郡沼田驛停車場前
**田島商店**
電略(タシマ)又ハ(タ)

農具金物
萬打及物商
瀨戸物類
井二

石狩雨龍郡沼田驛本通
**武田商店**

御待合所

石狩雨龍郡沼田驛停車場前
**野尻商店**



勉
強

**旅館**
取扱叮寧
親切特色

雨龍郡北龍市街地
**松岡本店**

雨龍郡沼田停車場前
**松岡支店**

和洋菓子調進所
瀨戸物小間物商
井二

石狩國雨龍郡北龍市街地
**佐々木商店**

吳服太物
萬小間物
其他各種
販賣商

石狩國雨龍郡惠比喜停車場前
**佐々木三藏商店**

御待合所

石狩國筑紫停車場前

加藤商店

鐵道貨物取扱

石狩國筑紫停車場前

藤田運送店

電略(フシ)又ハ(二)

御旅館

石狩國筑紫驛

青木房吉

成田醫院

石狩國筑紫市街地

御旅館

やきみ

留萌線筑紫停車場前

佐々木

○新式洋服裁縫

這回新に熟練の裁縫師數名を聘し期日迅速を旨とし最も新式の裁縫を本旨と致候へば倍舊の御引立御註文を乞ふ

○農産物種子販賣

石狩國深川市街地

渡元商店

和洋古着諸仕立物商

石狩國深川市街地

北川商店





石狩國深川驛前

谷口運送店

電略(タニ)又ハ(タ)

電話 長二一番

同 沼田驛前

谷口運送店

電略(タニ)又ハ(タ)

同 惠比壽驛前出張所

同 筑紫驛前出張所

天鹽國留萌港八間道路

谷口新聞舗

電略(タニ)又ハ(タ)

店主 谷口宗太郎

㋟ 通運株式會社取引店

○ 栗山組合資會社取引店

㊤ 上川運輸合資會社取引店

× 早達組代理店

丸 丸福組合資會社代理店

㊁ 西谷組代理店

㊥ 共立組合資會社取引店

庫 札幌倉庫株式會社取引店

ア 高畑運送店取引店

※ 米林組取引店

大 中央運送店取引店

石狩雨龍郡納内

鐵道貨物取扱所

早川源治

## 營業種目

米穀、荒物、
農産賣買、和洋小間物、
洋酒罐詰類、諸紙、
帳簿、其他各種
英米式自轉車特約販賣（附屬品一切）
佐渡物産筵、草籠、
草履、笊、
旭竹輪竹提灯竹
追テ佐渡物産ハ産地直仕入ニ付特別大勉强
卸小賣共大勉强


大 川上翁助商店
雨龍郡深川市街地
電話一六番
電略（カワ）又ハ（カ）



ウ 越中屋本店
石狩國雨龍郡北龍市街地
旅館
ウ 越中屋支店
石狩國留萌線惠比壽停車場前





荒物、乾物、
海産、雑貨、卸小
和洋酒罐詰日用品賣商
松 松長商店
石狩國深川本町
電話長五番



汽鐵道船
石狩國深川驛
深川共同運送店
電話四一番
電略（キヨ）又ハ（キ）



汽鐵道船
貨物取扱
北 宮崎運送店
石狩國妹背牛停車場前

石狩國雨龍郡深川本町
深川病院
院長 堀江賴信
（電話十九番）

營業品目
和洋金物一式
度量衡器販賣商
雨龍郡深川本町
杉澤金物店
電話一八番
電略（ス一）

## ●大和田驛

本驛は天鹽國留萌町留萌原野にあり、大和田炭礦、齋藤炭礦の所在地を以て有名なる地たり

●大和田炭礦　同炭礦は天鹽國留萌郡留萌村字ホロユードロマップにあり海面を拔くこと約五十尺、地勢は西方山を負ひ留萌川其東方山麓約百間の所を北方に流れ一里半餘にして留萌港に注ぐ、雨龍郡妹背牛より留萌港に達する縣道は同礦區内を貫通す、現在採掘特許面積二礦區九十七萬九千八百八十七坪なりとす、而して同炭礦の發見は明治三十一年四月にして同年八月佐藤喜代治金澤爲也の二氏開坑し後ち同三十八年十月大和田莊七氏之を讓受け水準以下の採掘に着手し爾來斜坑及各横坑道の開鑿、曳揚機械の据付、汽罐の裝置、喞筒坐の開設、馬車鐵道の敷設、貯炭場の建築等の設備を爲し專ら之が發展を圖りて以て今日の盛況を促したり、同炭礦の開坑當時乃ち三十八年度の產出高は僅々一千二百十六噸に過ぎざりしもの設備の完整に伴ひ其產出高も劇增し四十二年度上半期の產出高は二萬六千六百九十七噸の多きに達せり、四十三年九月を以て開通せる留萌線に於ける大和田停車場處在地たるを以て炭山として利便を享くること他に多く其比を見ず將來の發展亦推して知るべきなり。

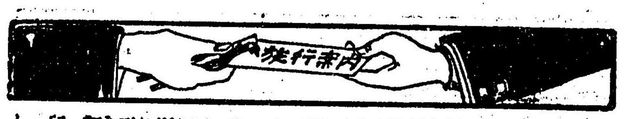
●齋藤炭礦　同炭山は明治廿八年頃石田某の發見に係るものにして、同三十六年迄採炭に從事し同年七月に至りて齋藤知一氏全礦區三十萬坪を讓受け佐藤隆氏等と合資組織を以て採炭事業を經營するとと爲し現時盛んに採掘中にして其一箇年の採炭額四萬噸を下らずと云ふ、炭質は幌内切込炭に比較して毫も遜色なし其需用地は重もに東京市に於ける各工場、越中、伏木、金澤地方なりと云ふ。

## ●留萌町

政界に於ける宿題として矢釜しかりし所の留萌港灣修築問題も第二十六議會に於ける北海道經營案の成立と共に、本港修築事業は十二箇年計畫、總額金三百九十二萬二千五百廿四圓を以て其第一着手の事業として豫算に計上し、四十三年度より起工せらるゝに決定し多年の懸案は茲に成立せり、而して留萌鐵道乃ち深川、留萌間の鐵道も四十三年九月を以て已に開通せり、恰も本道に於ける現時唯一の觀運兒たるの觀あるものは實に留萌町なりとす。

●位置　留萌は東經百四十一度四十五分、北緯四十三度五十六分、西北は日本海に瀕し東南稻や港灣の形をなす、留萌川は雨龍原野を流れて注ぐ其幅員三四十間に過ぎざる個所ありと雖も其深さ亦數尋に達する處あり以て舟楫の便々得るに足る、灣内に注流する留萌川を遡り雨龍原野に出ればこれ鐵道留萌線初發驛たる深川驛に至ると僅に其距離三十五哩に過ぎず、他日港灣の業成るに於ては冬期間結氷の虞なきを以て東海岸に於ける釧路港と相俟て北海全道を東西に橫斷するを得べく樞要の一大港灣をなすを得べきなり、加ふるに雨龍、留萌の兩原野は共に地味豐饒なるのみならず其石炭に富み、其農産に富み、其樹林に富むは全道稀に見る所、其石炭試掘を爲し若くは採掘中に屬するもの實に一百餘礦區に達せりと云ふ以て其豐富なるを知るべきなり、已に開通なせる處の留萌鐵道の利便に據て是等の一大富源及石狩、天鹽の大部と北見國一部の産物は留萌に依て內地各府縣若くは海外諸邦に向て輸出の途を開かるゝに至るを得べし、其他對岸露淸方面の貿易事業及國防上は勿論背部一百餘里の開發を促進し、其産物の販路を擴大し得べく以て運輸交通の利便を極むる






に至り、實に全道拓殖の奏効多大なるのみならず軍事上の便益と相俟て帝國鎭鑰の實を完うすることを得べきなり

●沿革　留萌町は明治四十年四月一日北海道一級町村制施行と同時に三泊村を併合せられて一個の自治團體を構成せり、回顧せば本町は天明年間紀伊國の住人栖原某が漁業を開始するに創り、本町現時其殿島神社の如き其の正覺寺の如きは皆其人の創始せるものなりと云ふ、察するに炊烟微々として住民稀少なる一寒漁浦に過ぎざりしならむ、今や一躍して戶數二千五百九十二戶、人口一萬三千四百六十五人を算し本道名港の一となり舊時の片影全く脫して漁、農、工、鑛、商業の如き旺盛を致し駸々乎として底止する所を知らざるの狀勢を觀るもの誰か今昔の感なきものあらむ。

留萌は原名「ル、モッペイ」と稱し舊土人の語にして（河水の鹹き）を意味し未開なる蝦夷の一部落なりしが、天明年間松前藩の支配に屬し栖原某に漁場を請負はしめ爾來開拓使時代まで請負を繼續せりと、明治二年蝦夷の稱を廢して北海道と改稱の際開拓使の直轄となり長洲山口藩をして之を支配せしむ、同四年山口藩の支配を免じ同五年留萌支廳を優別に置かれ其治下に屬す、同十五年廢使置縣に際し札幌縣の管轄となり同時に留萌支廳を廢し增毛郡役所を置かれ其所管に移り、同三十年官制改正に依り同郡役所を廢止し現增毛支廳の管治に歸す、同四十年北海道一級町村制を實施せらるゝに至り全く自治體となれり。

●境域と氣候　留萌町に屬する地域は東西凡十二里南北凡六里にして留萌村、禮受村、三泊村及留萌原野、留萌御料農地優別、留萌古丹、小平蘂原野、北小平蘂御料農地オネトマリ等の部落及十三ケ町より成り、東北は留萌郡鬼鹿村に、西南は增毛郡增毛町に、南は石狩國雨龍郡北龍村に界し、北は

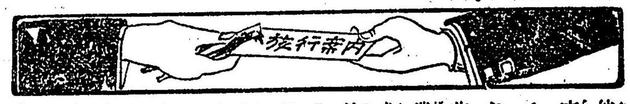
日本海に面して天賣、燒尻の二島に相對せり、氣候は石狩、十勝に比し夏秋とも溫度稍々高きを通例とす、沿海岸は夏季中氣候の變化と潮流の作用に依りて起る處の海霧の襲來を免れずと雖も其深厚の度尠くして被害割合に僅少なりと云ふ。

●農業　留萌原野は小平蘂原野丘陵の下層は到る所石炭にして平地は概ね濕地たるを免れざるも留萌川小平蘂川沿岸は土地肥沃にして農耕に適するのみならず野草繁茂し森林鬱蒼せるを以て牧場にも好適せり、農產の重もなるものは小豆、大豆、燕麥、稞麥、小麥、大麥、馬鈴薯等とす、尙最近の施設事業の主なるものを擧れば簡易養蠶傳習所、椎茸栽培講習、改良木炭講習所等にして、將來農事の改良發達を促すの必要を認め農事技術員を置き鋭意誘掖指導に努むると同時に前記各種の事業を新設し漸次改良を謀るの計畫なりと云ふ。

●漁業　從來水產物の重要なるものは鰊、鮭、鱈、鰈、鰷、鰤、鮑、鮑等漸次增獲を見るに至れり、而して是等産額は年々豐凶あり價格に騰落ありて一定の標準を得ること難しと雖も一箇年約四十萬の巨額に上れり、乃ち留萌町が沿革の記事中に述べたる如く長足の進境に達したるものは主として此の水產物の賜なりと云ふを得べし、去れば將來陸產物と共に倍々斯業の改良發達を期すべきは蓋し言を俟たざる所なり。

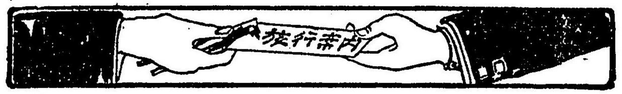
●工業　從來機關の完備しあらざりしを以て且冬期海運の不便甚しきを以て從つて漁業の外未だ工業の見るべきものあらざれども、陸には已に鐵道の開通せるあり、海には巽日築港完成するの曉に於ては天產の燃料豐富なる當町に於ては、勢ひ電氣及瓦斯の如き低價の動力に從ふべき諸工場は勃然として振興すべきは數の然らしむる所なりとす今將に電氣事業の計畫成らむとせるあり、製材其他の施設亦た擴張されむとす、懷ふに富町將來は本道中屈指の工業地として重視せらるゝに至るべきは決して遠きにあらざるを信じて疑はざるなり、佐藤工場同工場は佐藤隆氏の經營に係る留萌唯一の大工場にして明治卅七年七月の創業、其業務は鐵工製作品を主とし現在施設の機械は最新式にして何れも同工場鑄造部の製作に係る、其据付機械は「グライパン」十二尺以下六尺のもの七臺「ボールバン」二臺、光盤一臺等にして其の他側火工部あり、亦鑄造部には扇風器二個を据付け鐵の溶解は廿五分乃至三十分の僅少時間にして鐵湯と化し、其一回の鑄造量七百貫に達し一日二回鑄造し釜石レットガーを使用しつゝあり、現時製作品の主なるものは運搬車、漁用沖揚器ツイッチ、石油發動器、ポンプ等にして製工佳良にして頗る遠近に歡迎されつゝあり、尙佐藤工場主は鋭意率先して此他に四十三年五月木工部、精米部を創設し丸鋸二臺、縱鋸一臺、釜二本、蒸氣器械二臺を据付其一日の挽割力は優に千五百通に達しつゝあり以て其規模の壯大なるを知るべし、精米部は一俵搗臼四個半俵搗六個を据付け十時間にして二十五俵の精米を得るの力ありと云ふ、之れ等各工場の實馬力は七十八馬力八分にして蒸氣力を利用して各工場及邸宅内へ電燈を架設し其便を得つゝあり、斯の如く自己の工場に於て製作したる最新式器械の利用に伴ふ所の工業を起し以て其實益と實行を現實ならしめ具體的に工業奬勵を努めつゝあるものと云ふべきなり、工業界寂寥の時に方つて氏の如き人を得る實に留萌否本道工業界の爲め詢に意を强ふするものありと云ふべきなり。

●礦業　唯一の礦產物は石炭にして亦將來共に之を以て推さざるべからず、去明治卅九年迄其產額僅に一萬五千噸なりしもの現時は約四萬五千噸にまで達し其價格實に廿萬九千圓を超過せり、而して



試掘及採掘中の坪數を擧示せむに採掘中のもの百十九萬三千九百七十三坪、試掘のもの百七十一萬九千八百卅五坪なりとす、目下採掘中に屬するものは大和町、齋藤の二炭礦にして今將に北海業に着手せむと計畫せるもの日本煉炭株式會社、北海道炭礦汽船株式會社、馬場炭山等は其重もなるものにして其他尙數十箇處ありと云ふ。

●商業　商業の盛衰は一に商權の擴張に伴ひ集散貨物の多寡に據て消長あり、留萌現下の實況は其勢力範圍一地方に限定せられ未だ貨物の集散地と稱するを得ず、從つて水產物等の收穫時期に於ては商況頗る活潑なるも其他の時期に於ては商況緩漫にして不濕不作なるときは金融遲滯するを常とせり、去れども鐵道開通の今日及び他日港灣修築完成〳〵共に其商域は漸次石狩、天鹽及北見の一部に擴大せらるゝに及んでは是等の貨物を集散呑吐するの日は函、樺二港に亞くの大商港たるに至るや必せり。




交通　留萌町より妹背牛へ十二里二十六町、鬼鹿へ六里十四丁餘、羽幌へ十四里、北龍へ九里廿丁、苫前へ十一里卅五丁、增毛へ三里卅四丁、尙本港より本道谷要港へ到る浬數を擧れば增毛へ八浬、枝幸へ十二浬、函館へ二百三十二浬、網走へ二百三十九浬、福山へ二百十九浬、根室へ三百八十五浬、釧路へ四百八十浬、厚岸へ五百八浬、江差へ二百二浬、稚內へ九十二浬、岩內へ百二十五浬、紋別へ百八十二浬なり。

●留萌修築の概要　本港修築事業は左の四種とせり

（一）　防波堤の築設

防波堤は分けて南、北堤の二とす本港に對して最も恐怖すべき波浪は西及西南の强風に起因するものにして南堤は該方向の風浪に對して港內を擁護するを目的とす、北風は西又は西南の風浪に比すれば其勢力比較的微弱なりと雖も其回數多く彼に讓らざるのみならず地勢上北堤を築設するにあらざれば南堤及內港の効用を完ふすると能はず、北堤は此の二個の目的則ち一は北風に起因する港內の波浪を防禦すること、一は南堤及內港の効用を完からしむるが爲に必要缺くべからざるものとす。

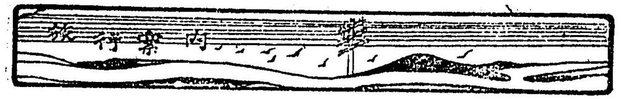
南堤は延長二千五百尺、北堤は延長二千百尺にして其目的とする主要の風向に對して各々約二十萬坪內外の水面を被覆す、將來必要に應じて北堤を延長し南堤と相對して完全に港口を扼せしむる時は以て港內全面積約三十六萬坪を一切の風浪に對して被護することを得べし。

（二）　內港の築設

內港は留萌川の流末に於て河敷を挾み面積約六萬六千坪を掘鑿して之を設け、干潮面以下平均十三尺に達せしめ以て小船舸艇の碇繫荷役に便す、將來必要に應じ其水深を增大するときは自



米穀　雜穀　荒物　雜貨　內外砂糖　麥粉
各國產物直輸入
卸小賣商
計良敬藏商店
北海道天鹽國留萌港




由に大船を繫留することを得べし。

(三) 留萌川の附替

留萌川附替は現在の河口を距る約五千尺附近より北に向ひ直ちに外港に放流するものにして其目的は(一)内港の埋沒を防ぎ(二)内港の氷結を緩和せんとするにあり

(四) 外港の浚渫

本工事は内港に接續して外港面積約八萬坪を浚渫し、干潮面以下二十六尺に達せしめ内港に通ずる水路を擴張し及外港に於ける大船の碇繫面積を增大するを目的とす。

(五) 施行期間及工費

本工事は明治四十三年度より同五十四年度に至る十二箇年を以て施行するものにして其工費下の如し

一金三百九十二萬二千五百二十四圓 總額

內

金二十二萬三千八百四十六圓 事務費 金六十三萬千七百五十圓 器具機械費 金五萬四千九百三十圓 工場費 金二百十六萬三千五百五十九圓 防波堤費 金五十四萬三千七百六十圓 內港築殿費 金十七萬五千四百八十五圓 河川附替費 金十二萬九千百九十四圓 外港浚渫費

●官公衙 町役場、郵便局、帝室林野管理局留萌分廳區所、留萌築港事務所、登記所、警察署等あり。

●金融機關 資本金五十萬圓の留萌銀行あり

●社寺 殿島神社(郷社)祭神は市岐島姫命其創始を審にせずと雖も天鹽、北見兩國中に於ける神社の濫觴たり、往昔奥蝦夷地鎮護の神社として奉齋せり云ふ、天明六年社殿建築の事古書にあり、明治九年村社と公稱し亞て同廿九年六月郷社に列せらる、現在の社殿は文化十三年栖原彦右衛門の寄付に係るものなり、寺院は正覺寺、光明寺、永福寺、報國寺等あり、外日蓮宗、眞言宗の說教所各一箇所、曹洞宗、眞宗同四箇所あり。

●料理店 見晴亭清泉館、山十印泉、丸一印日下部等にして清泉館は其名の見晴に背かず其眺望頗る絶佳、海は縹々たる水波背空に連り遙に見る白帆の順風を孕みて駛するあり、陸は連巒疊峯遮きものは翠黛語るが如く、近きものは淡冶笑ふが如く、烟霞香靄の中に出沒す、眞に山容水色の景を妥にするものは清泉館なりとす、丸一印、山十印の如き信用と庖丁の自慢を以て通士に知らる。

●旅館 丸又印太刀川、丸二印中村、遠藤、山元印富士元、曲七印坂井、山ウ印乾等ありて何れも信用あり。

## 增毛町

增毛は本道西海岸中屈指の良港にして已に百數年前より好漁業地として開發したる土地にして、夙に市街を形造し久しく西海岸の商權を掌握したるを以て萬般の秩序整然たるものあり。

●位置 本道の西北に位する天鹽國の西南端增毛郡にあり、一郡を以て一町を建つ、北西一帶日本海に面し、南は暑寒別岳、增毛岳、雄冬岳等の連山重巒して石狩國の濱益、樺戸、雨龍の三郡に界し、東方留萌郡に接し山多く平地寡し、城內の西南部を大字岩尻村とす其極西雄冬岬に於て石狩國濱益郡濱益村と界し、西北海に面し東、大字別苅村に接す、而して沿海大約六里の間斷崖壁立交通極めて不便なれども、其海古來魚介に富み、乃ち漁家各所に點在し本町屈指の漁場たり、本字に雄冬、岩老、歩古舟の三部あり交通極めて不便なり。

●增毛灣 鶴幌泊と稱し北緯四十三度五十一分卅六秒、東經百四十一度三十分十五秒に位し、灣入七町餘其形狀括囊の如く北に向つて開口し其囊底

に當る南方一帶の海岸を中歌と稱し、漁家密を並べ其背後に數十尺の高陵あり、陸上廣漠平坦にして遠く山野の麓に連り、肥田沃圃綾柴蕃生す、高岳逶迤して西に回り陵夷して市街に接する所增毛燈臺あり光達九海浬にして閃光鮮明良燈臺の稱あり、市街は最も平坦にして海水面上高十二尺に過ぎず、其北端海に斗出する所を增毛崎（野塚崎とも云ふ）と稱し港口西方の尖端たり、東方亦西南の如く高丘漸底して箸別原野に合し餘勢更に北に走りて稻穂崎となり、海上七百餘間を隔てゝ增毛崎と相對し以て增毛灣を包擁す、其形巴狀を爲し面積大約四十餘萬坪其水深は沿岸を距る僅に五十間にして三尋の界線に達し九十間にして五尋界に入り漸進して七八尋の深さに及ぶ、而して西南高く聳立する雄冬岳の長峰は遠く海中に突出して西南風の障屏となり、又灣の南方遙かに連亘する雄の山脈は西南風の强勢を挫殺して以て碇泊の安全を保障す、且其流行風力は西及西南風にして北及東北風は甚だ稀なるが故に北に向つて開口せる本灣は實に天與の良灣にして天鹽沿岸第一の良港と云ふべきなり、本港と交通運輸上の關係ある諸地方は天鹽、北見二國の全部及上川の諸地方にして其最も重なる者は小樽港なり、漁期及海陸產物の輸出時期は遠く各府縣の諸要港と相關係す。

●沿革　享德年中若狹の人武田信廣、松前に至り蝦夷亂をなすに會し上國館主蠣崎季繁を助けて之を戡ち功を以て季繁の女婿となり遂に其家を承く、玄孫支廉守慶廣の時文祿二年豐臣氏の命に依り蝦夷地全部を統轄し亞て德川氏に附し慶長四年氏を松前と改む、其後松前氏增毛、留萌、苫前、天鹽の四嶺を設け分ちて家臣の米邑と爲すや、其臣下國兵大夫に增毛領を賜ひ以て之を支配せしむ、文化四年三月幕府松前奉行を置き之を收めて直轄と爲す、蓋し當時驚人樺太に來寇の事あり邊人屢





屢警を傳へて北門の鎖鑰を忽諸に附し難きを以てなり、文政四年十二月更に松前氏に復し安政二年復た收め、函館奉行に隸す、當時本地に官廳あり安政六年秋川濟主佐竹右京太夫の米地となり牙營の所在地たり、幕府變に備へ諸侯をして之に當らしむるなり、明治元年函館府に屬し同二年開拓使を置き蝦夷の稱を廢し北海道と爲し、國郡を建て十一國八十六郡を別ちて省府濟の支配を定むるに至り山口濟の支配に屬す、同四年八月開拓使の直管となり、五年宗谷支廳に屬し、同六年二月同支廳を留萌に移し留萌支廳と稱するに及び又之に屬し、同八年三月同支廳廢せられ本廳に合併す、同十二年七月留萌郡役所を同處に置き同十四年之を增毛に移し增毛郡役所と改稱す、同十五年二月開拓使を廢し函館、札幌、根室の三縣を建つるや札幌縣の管轄たり、同　九年一月右三縣を廢し北海道廳を置き全道を統轄す、同三十一年十一月增毛郡役所を廢し更に增毛支廳を置て今日に至れり、斯の如くにして。增毛町は比年繁盛の域に進み明治十四年（七箇町五村）僅々戶數三百九十八、人口二千二百十四なりしに同四十一年に至り戶數二千百三十一戶、人口一萬四千六百七十七人の多數に達しつゝあり、以て其進歩の程度を推知すべきなり。

●市街●狀況　暑寒別川の東方增毛灣の西に位し大字辨天町、稻葉町、永壽町、畠中町、暑寒町、野塚町、七源町、畠中裡町、暑寒裡町、の九箇町及村落は增毛村、舍熊村、阿分村、別苅村、岩尾村、暑寒澤村より成る而して其周圍廿五里卅四丁其面積廿三方里餘地區最も平坦にして海水面上高十二尺街衢整然道路廣濶下水の設備完全にして市內に數條の溝渠あり、乃ち暑寒別川の分水にして一里許の上流より之を引き以て市民の用水に供し其水質亦頗る清澄なり、市街中最も殷盛なるは辨天

町、稲葉町、永壽町等にして各種の大商店軒を連ねて鱗次し繁榮を構む、辨天町には增毛支廳、帝室林野管理局增毛出張所、增毛區裁判所、增毛燈臺、增毛病院、上川營林區署、增毛分署、尋常高等小學校、及ひ重々なる漁業家の大厦高樓櫛比し回漕店、物産商其他旅館の重もなるものあり、稲葉町には北海道銀行增毛支店、增毛郵便局電話所、稅務署、永壽町に警察署、島中町に增毛土木派出所、增毛電信電話建築官駐在所、遊廓等あり、南方郊外を大字晩澤村とす平坦廣漠の郊野にして三面丘陵山岳を繞し面積大約六十萬坪農家所々に散在す、將來市街發展して其擴張を要する曉は本字之に應じ餘裕あらむ、增毛灣は市街の東端にして海水深く灣入し其口北に向ひ海底深濬大船巨舶岸頭に接近して投錨することを得べし、殊に春夏の候無數の和船漁舟は旅を並べて碇船し帆檣林立最も殷賑を極む、大字別芥村は晩寒川を界して增毛市街及晩寒澤村の西にあり、西南は岩尾村にして北は海に面す、鰊、鮭、鱒、鯛、等の漁獲頗る多し、大字舍熊村は增毛の東阿分村の南にあり、西北は海に面す箸別川其西を流れて增毛村と界を劃り信砂川其北を流れて阿分村と相界す、東部に信砂及御料の農地あり、亦南郊山麓に亘りて朱紋別の農地並に牧場あり、大字阿分村は信砂川の北にあり東、山を負ひ西は海に面し北、留萌郡留萌町に接して增毛町の盡頭とす、信砂に水田數十町歩あり近年の經營にして成績頗る佳良なりとす。



●河川、山岳●　晩寒別、箸別、信砂等の諸川其源を國境群嶺の間に發し城内を貫流して海に入る但急流狂瀾にして舟楫の便あることなきも、機力を起し以て興業に資すべく又清澄にして飲料に供すべし、晩寒別岳、雄冬山、增毛岳等は何れも高山にして晩寒別岳最も高峻海拔五千尺と云ふ。



●殖民●　增毛町は古來漁業を以て部落を建て漁業の發達は自然に移民を招來し漸次漁村を組成したるに依り政府の殖民政策に據り移住したる殖民は未だ之あらず、明治四十年五月卅一日道廳告示を以て本町各字に於て殖民地八百餘萬坪を設定すべきを公示せり、規模甚だ狹小にして多衆を容るゝに足らされども其實施を見るに至らば亦町の一活氣たるを失はざるべし。

●産物●　前述の如く增毛町は古來漁業を以て部落を爲し又漁業を以て發達したる地方なるが故に、往時は水産物以外別に産物の見るべきなく米鹽布帛日常一般の需用品は皆之を各府縣に仰き、蔬菜の細に至るまでも尚且輸入に須つの狀態なりき、十年當町に於ける畑反別五町八畝五歩に過ぎざりしを見ても其一斑を知るに足るべし、其後廿年に至り晩寒澤村の設定あり漸次に農民の移住を招來し尋て廿二年信砂農村の開發あり、卅三年六月信砂





精白米
荒物海陸物産商
本間仁助商店
天鹽國增毛港

御料地を開始して農民を招來し津輕、秋田の者多數を占む、而して菽麥、禾黍の屬皆土宜に適すと雖も部落農家の食料に止り地方の產物として多數輸出の盛況に達せざるを遺憾とす。

●小野寺農場　同農場は固と增毛共同牧畜合資會社と稱し小野寺喜兵衛（先代）氏が牧畜事業經營の目的を以て、明治二十七年二月增毛町の舍熊村字信砂の牧場適地五十萬六千餘坪の拂下を受け、該事業經營中先代喜兵衛氏病歿せるを以て現代喜兵衛氏之を繼承せしも牧畜の事業成蹟良好ならざるを察し、三十一年に至りて起業變更を爲して農業經營に全力を傾注し遂に三十五年十二月に至て五十萬六千餘坪は全部畑地として成功せり、於是同氏は尙進て同合資會社を解散し小野寺農場と改稱すると同時に麥作を奬勵すべき目的を以て一方に水力を利用し挽割麥を精製し弘く市內に販賣することゝなし、尙燕麥、菜種、を重もに作付せるのみならず、尙進んで畑地を變更して水田となすの計劃を樹て十五町歩餘の水田を成功せしめ其成蹟甚だ良好なりしを以て、漸次全部を水田に變更すべき目的を以て着々進捗しつゝあり、全部水田に變更の曉は實に米の收穫高二千百六十石の多きに達すべし、目下已に成功せる水田は二百町歩餘に達せりと云ふ、小作人に對しては一反歩に付一圓の小作料を徵し其收穫物は農場に於て販賣の便宜を與ふる等小作人を奬勵するの途を講究せり、同場は目下の小作人三十二戸ありて夫れ等の子弟及附近農民の子女の敎育を忽諸にすべからずとし、進んで小學校全體の敷地を寄付し敎育設備を完全ならしむる等小作人の爲めに圖る所あり、現今の生徒は九十餘名に達し頗者道廳より模範學校たりとの讃賞の下に五十圓の賞金を其校に下附さしたるが如きは、獨り校其ものゝ榮譽なるのみならず實に移住者招來上及農民をして愛如として其地に永久的就業の決心を鞏固ならしむる上に於て偉大なる稗益あるべきものと云ふを得べし。



●高橋農場　同農場は山形縣鶴岡町の人高橋外七氏の經營に係るものにして增毛唯一の模範的農場たり、其所在地は增毛町字舍熊村にして氏が始めて此地に移住したるは明治十九年にして、由來漁業地を以て發達したる土地なるを以て更に永久的秩序的事業たる農業に意を注ぐものあるなし、此間に樹つて氏は獨り本道の將來は必ず農業に據るにあらざれば其の開發を促し發展を圖るは斯業に如くものなきことを看取し、同廿三年に於て二十九町歩の拂下を受け先づ三畝歩を以て水田を試作せしに意の如く成績良好なりしを以て、經營劃石に枕し露に臥すの苦を嘗め水田十六町歩餘を成効せしめ以て水田の有利なる事の模範を示し、依て以て增毛町及其附近の農家をして競ふて水田を奬勵するに至らしめたるの端を開きたるは實に氏の賜と云はざるべからず、而して農業に關する所の植物及び副產物乃ち蠶業、鳥類、養豚、鮒、鯉、の繁殖事業に至るまで一として經營せざるなく、實に氏の農場は農事試驗場とも云ふべく以て其模範を他に示し斯業界に貢獻する所鮮しとせず、其他樹林はポップヲ、落葉松等の栽培養成を爲し其面積八萬坪に達す、苹菓の如き其面積六千坪にして成績良好にして年々他地方に輸出するもの甚だ夥し、尙氏は牧場經營に意を注ぎ現今牛六十三頭、馬匹七十二頭を有し、種馬は米國產にして重もに農業用並乘用を養成するの目的なりとす、氏が經營する所のもの其規模小なるものゝ如しと雖も斯界に貢献する處の目的を以て、農事全般の好模範を示し以て本道農業奬勵上に資する所の利益は實に偉大なりと云ふべきなり、宜なり天鹽郡農會代表者、天鹽郡農會督勵委員、增毛町

農會所議員の如き斯界に線故深き公職を擔ふに依て見るも氏の爲人を推知するに餘りあり。（口繪高橋農場田植光景の寫眞版參照）

●交通● 東南の二方山岳重疊して石狩國に界す、北西一帶日本海に面し山多く平地少し、陸路は東、留萌を經て石狩國妹背牛に至り鐵道に達する一線あり、但暮春晩秋の頃は泥濘馬脚を沒し行路極めて艱難なり、又西方增毛山道を經て濱益に出で石狩町に通ずる一線あれども山路險惡にして通路容易ならず、海濱道路は留萌、苫前、天鹽の諸郡を經て北方北見國宗谷郡稚内町に通ず、海路は四十九海哩航行僅に五時間にして南小樽港に達すべし、春夏秋の三季は海上平穩にして航海自由なり、日々數隻の便船あり行旅の來往百貨の出入皆之に須つ、唯だ冬季は風濤常に荒み時々或は旬日船舶の片影だも見ざることあり、乃ち此季に於ける交通運輸は雪舟に拠して妹背牛鐵道に達する一途あるのみ、他日增毛、留萌間の延長鐵道の實現さるゝの日は蓋し其利便鮮からざるべし。

●官公衙● 增毛支廳、町役場、帝室林野管理局增毛出張所、增毛區裁判所、郵便局、警察署、稅務署、土木派出所、電信電話建築官駐在所、上川營林區署、增毛分署等あり。

●社寺● 稻葉町に殿島神社あり、祭神市岐島姫大神文化十三年七月松前福山の人伊達林右衛門之を勸請したるものなり、畠中町に白窓寺、（日蓮宗）澄寺（眞言宗大谷派）、龍淵寺（曹洞宗）等あり。

●銀行、會社● 金融機關としては北海道銀行增毛支店あり支店長は河内純一氏若手にして拔腕の聞えあり、會社としては丸一本間合名會社あり、組合としては水產組合、漁業組合、海陸物產組合、酒造組合等あり。

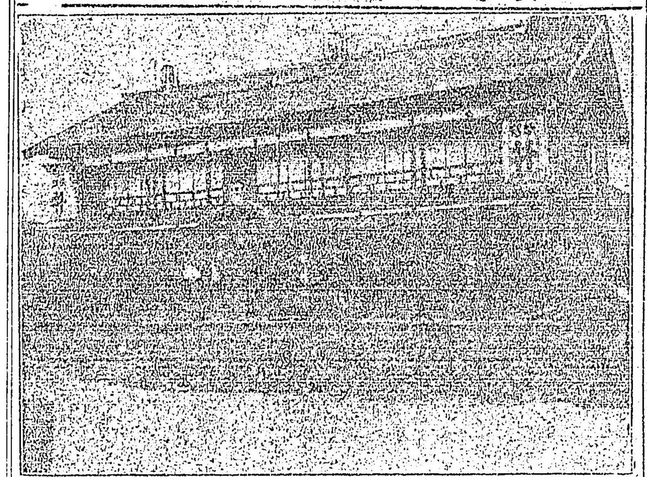
●工業● 青木酒造場は青木順五郎氏の經營にして去明治廿六年の創業たり其釀造に係る清酒春惠廣印

旭川賞

業案内

入場不同

無限責任 糸屋銀行
兵庫縣氷上郡黑井村
(電話 壹壹參) 同 旭川支店
北海道旭川二條通七丁目
(電話 貳) 同 瀧川支店
石狩國空知郡瀧川村
(電話 貳) 同 深川出張所
石狩國雨龍郡深川村



宿料均一 中谷旅館 旭川宮下通二十百番電 (電略ヤド)



喜娘 醸造元
旭川町四條通十六丁目
堀川本店
電話五五一番
醤油醸造元
旭川町四條通十五丁目
堀川支店

營業課目
米穀、雜貨
味噌
醤油
白鹿特約販賣
直段勉强、出荷確實
十勝國帶廣西二條六丁目
下村帶廣支店
電略(テウ)又ハ(シ)

旭川
高等旅館
三浦屋

HOTEL

山城屋旅館

旭川一條通九丁目左五號

電話六三〇番 | 電略(ヤマ)又ハ(ヤ)



魚菜漬物薪炭商
醤油醸造元
一山味噌
山庄山彌惣治
旭川町四線一號
電話四三七

鐵道船舶
貨物取扱
金森運送店
旭川驛構内
電話(一三〇番)電略(カナ)

第七師團各隊
陸軍被服本廠
陸軍糧秣本廠
札幌派出所
諸官廳
御用達
上川運輸合資會社
北海道旭川驛前
電話(長三一番 四三九番)電略(カミ)又ハ(カ)
振替貯金口座東京一三四八五番

なんの、やまいでもはりと、きゆてをはす
治療代一度金拾錢です

**山田旭川出張所**

旭川町二條通十丁目左八地
東京市下谷區上野櫻木町廿番地

秋田本村株式會社
杉桃板類
酒樽類
箱類
家具類

**㊀ 久米商店**

商店特約販賣
北海道旭川町三條通十三丁目左三號
電話〇三三

**旅館**

旭川停車場前
電話二六二番

**中村屋**

通運業早達組代理店 ㊀ 內國通運株式會社取引店 ○ 栗山組 △ 運送組
㊁ 西谷組 丸福組 各代理店

**㊀ 林運送店**

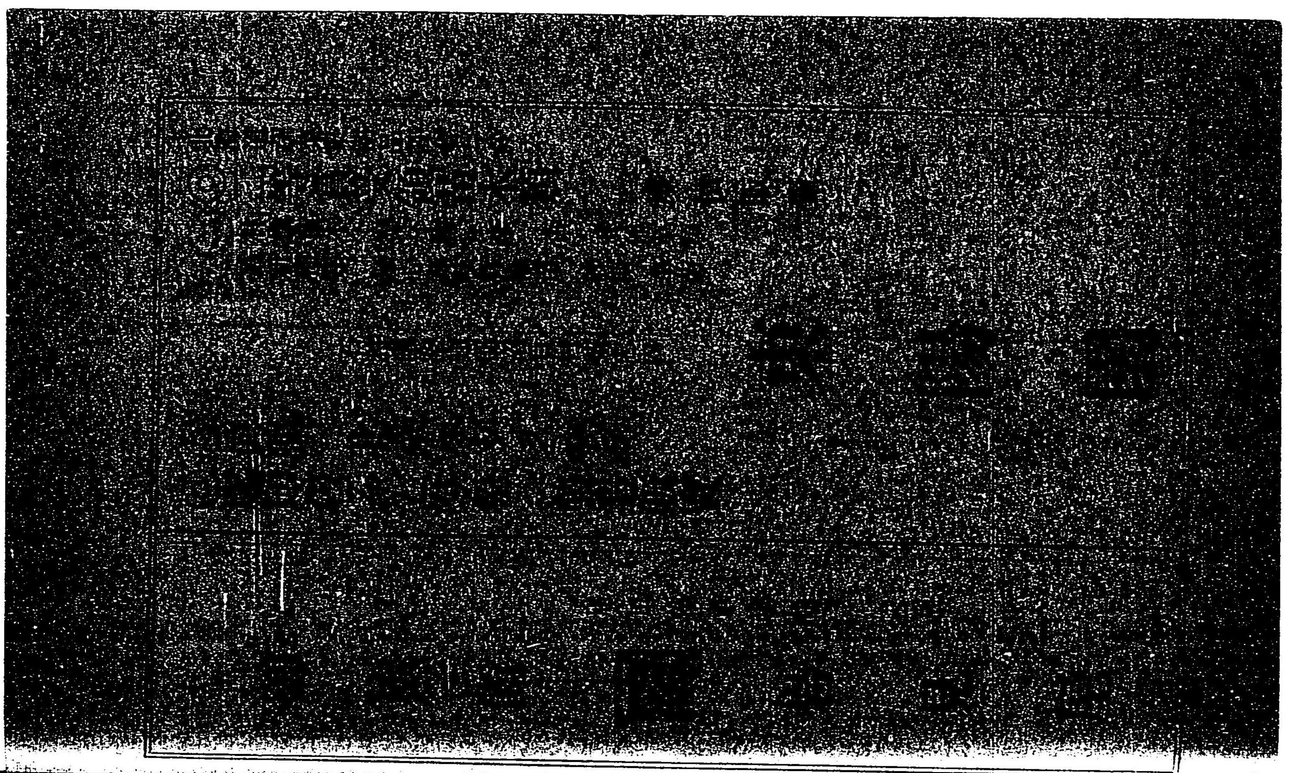
內國通運株式會社外拾六運送店取引及代理店
北海道旭川停車場前

**大西運送店**

電話四番

**鐵道貨物運送取扱**

**山田運送店**



船舶鐵道
貨物取扱
石狩國瀧川停車場構內
相澤運送店

吳服太物
洋反物類
和洋小間物
商
井
石狩國砂川驛
伊藤商店
電話七番

和洋小間物
書籍文具
學校用品
大
石狩國砂川驛
近藤政太郎商店
電話三十二番

# 十勝帶廣停車場前

○全國到る所取引店あり
○內地取引店㊥三立社

十

鐵道船舶貨物取扱所

## 曾根原運送部

電略(ソネ)ヌハ(ソ)

營業主 曾根原濱三

㊤

## 旅館 信陽館

旅館は鐵道下車眞向ふにして四通八達至便の地にあり

米穀　肥料　荒物　諸雑　貨商

商號　モ越後屋若林綱造

石狩國雨龍郡妹背牛市街

の一箇年の造石高一千二百石にして重もに天鹽沿岸へ向て輸出を謀り其品質醇良頗る聲價あり、其他松竹梅印醬油、櫻印燒酎、山吹印味噌等を釀造し其販賣力殊に增大しつゝあり、別芥村に佐々木與市氏の經營せる鰊油及沃度製造所あり年々の產額少からすと云ふ。

重なる商店　本間泰藏、小野寺喜兵衛、加納宇平、青木順五郎、花輪定德、山本德次郎、八川宇一、西川與八、佐藤耕造、本間貞吉、館野靜一、本間仁助、坂本原永等の諸氏にして何れも增毛町の白眉を以て名ある人々なり。

●醫院　增毛病院、今野醫院、須崎醫院、武田醫院、等あり。

●料理店　重なるは丸立寺井、日勝亭、柳屋、丸仁印村上、甲斐明樓等にして貸座敷は昇月樓、松島樓、甲斐明樓等あり。

●旅館　信用ある重もなるものは丸も印石井宇八、山北印伏見、丸金印久保とす、就中丸も印石井旅館は古來よりの旅館にして客室其他の設備より旅客の取扱振りに至るまで所謂卒い所に手のとゞくやうな親切と叮嚀を旨とせる增毛第一の高等旅館とす、山北印伏見旅館は最近の新築にして總て清潔と親切を第一とせる信用ある好旅館なり。

## 上川線（上川線三十六哩一鎖）

### ●砂川驛

當驛は空知郡奈井江村字砂川にありて岩見澤、瀧川、歌志內等の各地へ到る分岐點にして其詳細は空知線砂川驛の記事に就て見らるべし。

### ●瀧川驛

米穀
肥料
荒物
諸雑
貨商

商號 モ 越後屋若林綱造
石狩國雨龍郡妹背牛市街

當驛は空知郡瀧川村にありて市街あり、附近屯田兵村多く、有名なる新十津川の砂金地へ到るには當驛より下車するを便とす其里程約二里とす新十津川は明治二十二年大和國十津川郷の罹災民六百戸移住開墾したる所なり、工業としては別に記すべきものなきも製絲場ありて盛んに製絲業を營みつゝあり、物産としては大小豆、菜種、蒟、澱粉等を以て重なるものとす。

## ●江部乙驛

當驛附近一帯の兵村にして屯田兵八百四十戸ありて農業に從事しつゝあり故に農産の收穫物の如き多額に達す。

## ●妹背牛驛

當驛附近は土地豐沃農業の進歩したる地にして本道隨一の模範的大農場たる蜂須賀農場、其他本願寺、戸田の各農場の所在地たり、就中蜂須賀農場の如き十萬圓の巨資を投じ濫漑溝を設け水田を開發し米質の如き最も好良を以て聞ゆ、

## ●深川驛

當驛は雨龍郡深川村にあり雨龍原野の南部に位し戸數約三百を有する雨龍原野の市場にして附近一區屯田兵村及菊亭農場等ありて農業盛んの土地なり洋細は留萌線深川驛の記事に依て詳述せり。

## ●納内驛

當驛は石狩原野の終點たり。

## ●神居古潭驛

神居古潭は石狩國の二大原野を扼する咽喉地にして山岳重疊石狩川の奔流滙にして深潭を成し巨巖奇石兩岸に連り、春夏秋冬四時の光景絶佳を極む車中之を見る恰も一幅の畫圖中の人たらしむ。

## ●旭川驛

●位置 上川の地たるや北海道の中央に位し海を拔くこと大約四百四尺、四圍山嶺を繞らし殊に東部に聳立する所のヌタクカムウシュベ山は本道第一の高山にして山容雄大眞に北海の重鎮たるに背かず、石狩、忠別、美別の三川原野を貫流し合して一條となり、蜿蜒銀蛇の如く神居古潭の狹谷に入り石狩原野に駛走す、旭川町は此原野の西部三川合流點の東部に位し、南西は忠別川を以て神居村に連り、北は石狩川を隔てゝ鷹栖村に對し、ウシュベツ河を以て永山村に境し東に風防林を以て東旭川村に接す、其面積七十二萬五千餘坪あり、離宮豫定地は忠別川を隔て神樂村にあり神樂ケ岡といふ、地勢高燥樹木蓊鬱此所に登臨すれば上川原野の風光は双眸の中に集り、脚下に旭川全市街を瞰て眺望絶佳なり、第七師團は市街の北東にあり相距ること凡一里とす。

●沿革 探檢者の始めて此上川の地を踏査したるは文化年間間宮林藏氏の來りたるに起因し、其後安西四年松田市太郎、松浦武四郎氏等の山川を跋渉せし事實あり、明治十八年に至りて岩村通俊、永山武四郎氏等石狩川を溯りて近文山に達し上川原野を瞰て開拓を議し此地の本道樞要地たるを相して碑を其山頂に建つ、同十九年北海道廳を置かれ岩村氏長官となるや二十二里の假道を開き以て空知郡市來知より忠別太間の往來に便す、同二十

二年道路開鑿の工事竣成を告げ往來の便開けたるを以て移住者大ひに增加せり、同年旭川市街地を區劃し離宮豫定地を定めらる、同二十三年九月神居、永山、旭川の三ヶ村を設置し、同廿三年屯田兵四百餘戸を永山村に四百戸を旭川村に移し、同二十六年屯田兵四百戸を當麻に移住せしめ、同二十九年旭川、空知太間の鐵道敷設の擧あるや漸く上川の名をして世人の注意を惹くに至れり、同三十三年七月上川郡役所を設け同三十一年七月旭川空知の鐵道全通すると同時に旭川を基點として天鹽線、十勝線と連絡するに及んで旭川は駸々として發達進歩の機運に際會せり、同十三年八月旭川村を町に改め、同年十一月第七師團は札幌より移轉し以て旭川の發達を增々促し來りて遂に今日の如き盛況の域に達せしめたり。

**市街の概況**　市街を南北に分ちて九條となし東西は一丁目より二十丁目に至る、又別に宮下通、常


和洋小間物
雜貨商
旭川町三條通八丁目左・號
黑坂商店

洋服調進所
旭川町三條通九丁目左三號
黑坂洋服店

盤通、曙通を設く、旭川停車場のある所は宮下通りと稱し次ぎを一條通となし順次北に逐ふて九條通りに至る、現今最も繁盛なるは一條通二條通にして之に次ぐは三條通宮下通となす、各通りの間に各々一條の小路あり又横通中七丁目と八丁目との間を師團道路と假稱し、停車場より旅栖村に通ずる道路には鐵道馬車あり、車馬の往來絡繹として織るが如く交通最も頻繁なり、一條通りは一丁目より二丁目に至るまで人家櫛比し壯大なる建築少からず商家旅店等連り第一勸工場あり、銀行あり、劇場あり、郵便電信局は其十一丁目にあり、二條通りも亦稍々一條通りに同じく第二勸工場あり、町役場及北海曙新聞社（明治三十四年一月の創設にして前道會議員中島民二郎氏の主宰に係る）は共に其八丁目にあり、三條通り十一丁目には上川支廳、警察署あり、北四條通りには區裁判所あり、其東には稅務署あり、四丁目五丁目には寺院多し、五條通りには日本軸木會社あり蒸汽機關を用ひて盛んに外國輸出の軸木を製出せるあり六條通りより八條通りに跨りて上川農事試驗所あり旭川憲兵屯所、上川倉庫株式會社は宮下通りにあり、其二丁目に神谷酒造合資會社旭川釀造場あり、北海道鐵道部旭川工場は市街の南東隅に位し壯大なる工場四棟あり專ら鐵道用の器具を製造修補す、五條通り十一丁目に上川中學校あり、上川二等測候所は六條通十丁目にあり、以上略述するが如く一條通りより五條通迄は商家旅人宿料理店諸官衙を以て充てり、曙通は市街の西部にありて一條通りの端より起り茲に遊廓あり、常盤通りは師團へ通ずる道路にしてウシュベツ川と石狩川との間にあり、明治三十二年師團建築工事の創始と共に新設せられたるものにして人家連檐商店、料理店、寄席等ありて頗る繁榮を極めつゝあり。

**旭川近時の發達**　當市街の繁榮は固より地理の便に依ると雖も其未曾有の進歩發達をなしたる所以は明治二十九年空知太、旭川間の鐵道敷設に着手したるに始り、同三十年上川郡役所の設置となり亞で三十一年七月空知太、旭川間の鐵道開通し、鐵道部の工場を當地に移し官設鐵道の集點となり職工人夫等續々入り來つたるに基因す、更に一層急激の進歩を促したるは同三十二年第七師團の用地を廳柄村に定め直に工事に着手したるの一事に基けり、茲に於て本道の各地は勿論遠く各府縣より來往するもの頗る劇增し忽ちにして市街は膨張するに至れり、當に當市街のみならず師團用地に至る道路の兩側は悉く商人其他一般の人々麇集して茲に純然たる市街地を形成せり、回顧すれば明治三十二年の春頃迄は石狩川ウシユベツ川間及び石狩川より近文原野一線一號間の如きは唯だ一條の道路の外茂林鬱蒼蠢鈍は暗き感ありしが、今や商家軒を列ねて更に當年如何なる狀態にありしかを知る能はざるに至れり、誰れか又蒼桑の激變遷移に驚かざらん今試に其人口增加の速度を示して、其進歩發達の有樣を立證せむに、明治三十一年末には戶數一千二百十三にして其人口四千百六十二人に過ぎざりしに、同三十三年末に至り戶數二千四百三十九、人口九千二百九十四の多きに達し僅に二箇年にして二倍以上の增加をなせり、尙進んで同三十七年末の調査に依るに其戶數は四千八百七十一、人口二萬〇七百五十七に達せり、約四箇年間に於て十倍以上の增加を呈せしのみならず今や戶數五千餘人口三萬以上に增加しつゝあり、實に斯の如き急激なる進歩は古來本道は勿論各府縣に於て更に其比を見ざる所以なり、而して尙附近農業の發達すると十勝線全通後に於て當地は勢ひ其商域の擴張を促し、其進歩發展の趨勢は蓋し計るべからざるものあらむ。





**製造業**　▲鐵道廳の所管なる上川工場は明治三十一年七月の創立にして其規模大にして數百人の職工を使役し機械の製作修繕に從事せり

●神谷酒造合資會社　は明治三十三年の創立に係り總資本金は三十萬圓にして第一釀造場は旭川にありて彼の有名なる熊印酒精を釀造しつゝあり、同酒精は工業用、醫藥用、飲料用に使用せられ民間に於ける販路の弘きは勿論宮內省陸軍省其他政府の御用品として採用せられ、近くは輸入品を防遏し頗る好評と信用とを以て將來大發展の地位を占領しつゝあり、尙同釀造場の附帶事業としては牧畜の業を起し養豚を盛に奬勵し生肉は勿論ハムベーコン、ソセージラード等の製造を營み大いに好評を博し需用頗る盛んなり、其第二釀造場は東京市本所區中の鄕瓦町にありて專ら旭印燒酎を釀造して一般需要者の嗜好に適するに努め販路の信用最も多く從つて釀造石高の如き目下六千餘石の多きに達せり其他改良淸酒、味醂等を釀造しつゝあるの外尙附帶事業として牧畜場を計畫設置中にあり、之を要するに同會社が製出する所の熊印酒精の如き年々の輸出額激增し國家事業として斯業界に信用を博しつゝあり、尙東京に於ける第二釀造場に於て製出する所の、旭印燒酎、味醂等に至りては多年の經驗と精巧なる機械力とを應用して以て從來の釀造法に比して多くの力を省略するを以て從つて其價格を低廉ならしめ加ふるに其品質たるや極めて精製品なるを以て其販路上の便益最も多く從來の製品を壓倒するの實力あり斯の如き有樣を以て進歩するに於ては優に我國に於ける酒の釀造界に一革新を與ふるに至るべきや蓋し疑なきなり。

●酒精　は從來攝氏十五度のものにして九十四は普通の釀造に係るものたり、然るに四十二年度より九十五六度迄の必要起りて試釀したるに最も成績

好良なりしなり、如斯強度の酒精は輸入品に待つの外なかりしに同社が好良の成績を以て醸造し得たる曉は輸入を防遏し醸造界の一進歩と誇稱することを得べし、ウイスキーは第一旭川工場にて十數年前より醸造貯藏して兩三年前より始めて賣出せるに醸造年數を經過せるを以て殆んど外國品よりも優秀せる品質なるとは一般需用者の豐富なるに依て知るべし。

▲今井合名會社　旭川支店として呉服部、洋物部銅鉄部等の各店は師團通り目抜きの場所にありて其販賣力の多き他に其比を見ず、▲今井合名會社旭川醤油醸造所　同醸造所は本道中屈指の醸造所にして壯大なる數棟の醸造場を有し、醇良芳香なる醤油の醸造を爲し特に醸造試驗場を設置し風味色澤とも能く一般需用者の嗜好に適するに劣め而かも其品質の頗る卓絶せるを以て其商標の信用最も重く其販路の如き全道各地に普及し隨て醸造石數の如き數千石に達し斯業界に於て頗る信用ある醸造所とす▲上川製線所　其他要肥料製造所、火黒肥料製造所、向井米麥製搗所田中木挽所、佐々木木挽所、館脇煉瓦製造所等あり。

金融機關　としては拓殖銀行旭川支店、北海道銀行旭川支店、貯蓄銀行旭川支店、絲屋銀行旭川支店等あり。

遊覽案内　としては特に記すべきものなしと雖も翠香園は芍藥、牡丹、菖蒲其他珍奇なる千樹萬草を以て有名なる花園なり、園は曙通右三十六號鐵道線路に沿ふ所にあり、偕樂園は八條通九丁目にあり旭川小公園として一遊するの價値あり、牛日園は曙通の番外地にあり種々珍奇の草花を栽培せり、旭ケ岡は離宮豫定地にして旭川町を距る一里南に美瑛川北に忠別川を控へ、高燥の地にして近く市街を俯瞰し、石狩嶽を指顧の間に望み其風光頗る絶佳、櫻花爛漫の候市人の此地に杖を曳

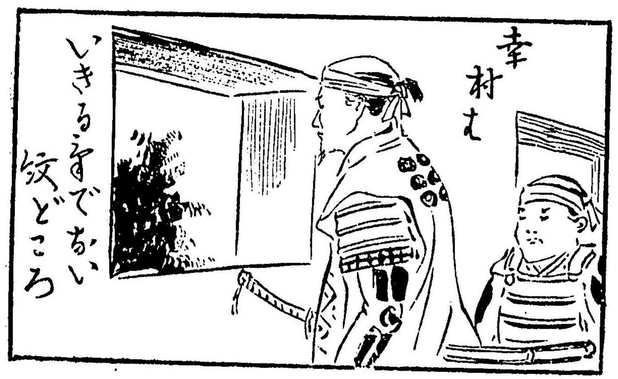




旭川町二線一號郵便局前

佐守洋服調進所

電話六六二番
電略（サモ）



## 内家行旅

くもの多し、旭川の名勝として世に紹介するの價値あり。

●近文山　明治十八年岩村通俊永山武四郎の諸士探究して石狩川を溯り此山頂に登り上川原野を遠望して開拓を議す、今石碑を建て記念せり、ヌタケカムウシュペ山上川原野の東方に聳え海拔五千百餘尺本道第一の高山なり。

●農牧場　大牧場としては藤野四郎兵衛氏の牧場とす其事務所は旭川町字近文五線一號にあり、北見國網走、釧路國庶路、上川郡美瑛の各牧場を併有して其規模頗る擴大なりとす、又大農場としては上川郡美瑛村の旭農場及び上川郡農會等を以て其重なるものとす。

●料理店　料理店の數甚だ多しと雖も其客室の多き設備の完備せる、取扱の丁寧なる高等の大料理店としては第一樓、忘歸樓等を以て第一とす。

●遊廓　中島新廓には新勢樓、いろは樓、高島樓、昇月樓等最も有名なり薗廓は市街の西部一條通りの端にあり、青柳樓最も名あり。

●旅館　高等の大旅館はヤト旅館、三浦屋、宮越屋等にして之に亞ぐは笹岡屋、丸ヤ千歳、宮城館、紀伊國屋、山城屋、山大吉野屋等最も信用ありて且何れも取扱叮嚀なり。

# 今井合名會社

旭川吳服店　電話五十一番

同　旭川洋物店　電話五十二番　五十七番

同　旭川金物店　電話五十三番

同　旭川醬油釀造所　電話五十四番

## 天鹽線（四十六哩六十九鎖）

### ●永山驛

本驛は石狩國上川郡永山村にあり、永山村は明治廿二年九月當時の北海道廳長官たりし陸軍中將永山武四郎氏自から探檢踏査せし處にして、土地平坦地味豐沃なり、翌二十三年九月永山村と命名して二十四年六月屯田兵四百戸を此所に移住せしむ、之れ本郡移住者の嚆矢なり、其市街は一直線なる中央道路にして兩側二里の間に兵舍整然駢列し、田畑耕耘の好蹟は模範村として賞賛せらる、戸數百八十人口四千五百八十餘を有し農業頗る盛にして、尚今後水田の增加を見るに至るべし。

●●●永山神社　は天照太神宮大國主の神を合祀す、境内清楚にして風景最も佳征清の役に於ける名譽の戰死者大村中尉の碑あり、高さ一丈餘毎歲七月一二の兩日祭禮を施行し競馬、角力、擊劍等の催しありて頗る繁賑を極む。

「●●●

名寄村は東及北に山岳を負ひ中部は低き山脈丘陵相連り天鹽川「フーレベツ」川ナヨロマ川の横流する平坦肥沃の原野方數里に亘るの地たり、而してナヨロ川の流域より天鹽川沿岸まで一帶の原野を名寄原野と稱し天鹽川兩岸の地に分立する平原を名寄原野と稱す當村は明治三十六年九月鐵道開通以來漸次移住者增加して全村の戶數七百餘人口二千五百有餘市街地の戶數凡そ四百餘にして將來農業の發達に伴ひ益々此地は殷賑を極むるに至るべし。

●●交通●● は旭川より「バンケンサツクル」及「オウコツペ」を經て網走方面へ通ずる國道あり、運輸頗る便なり、當村より北見國境然別迄九里、「オツコツペ」迄十八里、紋別へ二十里、網走へ四十八里又北方「ピウカ」へ四里、「オンネナイ」へ八里、「バンケサツクル」へ十七里餘、枝幸へ卅六里餘、南方多寄へ一里半、士別へ七里なりとす。

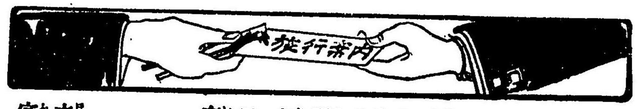
●●アイヌ部落●● は停車場を去る二十餘丁の名寄太にあり、昔時「メヨロ」川沿岸「キーウシヌプリ」に住せしも漸次戶數を減じ明治廿八年頃今の地に移居せり。

●●嵐山●● は名寄市街地の北方數丁にして停車場を去る十二丁の地にあり、山頂平坦にして二段を成し前面に名寄川を控へて斷巖絕壁連亘し、右方に天鹽川の清流あり、左方に名寄市街を望むで遙かに石狩國境の諸山脈を眸裡に蒐め眺望絕佳、里人之を稱して嵐山と云ふ。

## 十勝線（七十哩一鎖）

### ●邊別驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國上州郡神樂村字邊別にあり邊別村は全村御料地に屬し中央に饗宮豫定地たる神樂ケ岡あり、此丘陵を以て東西兩部に分ち世俗之を東御料地と稱す、地味概ね肥沃にして人口四千百餘戶數八百餘あり。




### ●美瑛驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國川上郡美瑛村字美瑛にあり、美瑛村は明治廿八年初めて兵庫縣人の移住せし所にして全村一大平原なり、ペペツ大原野、ウバクペツ原野、ヨウコシナイ原野、美瑛原野等あり明治四十年第七師團の廳舍四千餘坪を建設して以來頗る人口增加を示し目下の戶數一千、人口三千五百餘を有するに至れり。

### ●上富良野驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國空知郡富良野村大字上富良野にあり富良野村は蝦夷語の「プラヌイ」にて臭火烟の意義なり、蓋し美瑛川の上流に硫黃山（乃ち十勝岳）ありて臭烟の立上るが故に此名あり。

●十勝岳●の壯觀●● 十勝岳は南東に聳ゆる高山にして高さ五千九百八十尺あり、昔時は一大噴火山たり故に今尙山嶺處々に舊噴火口を存して水蒸氣高く昇騰するを見る遠く望めば其狀恰も現に噴火しつつあるものゝ如し、同山の舊噴火口及其一帶は鄙る硫黃に富み溫泉處々に湧出して「フーラヌイ」川の水源となる近時此の地に溫泉場を設置せるを以て漸次浴客の此地に遊ぶものあるに至らむ、當驛より同岳へは約三里觀光者は當驛にて下車するを便とす。

### ●中富良野驛（公衆電報取扱驛）

本驛は石狩國空知郡富良野村大字中富良野村にあり。